

して開花し、温室に於ては冬にても開花す。元來ペラルゴニウムの名稱は、希臘語の Pelargos 即ち鶴より出でたるものにして、蓋し其果實の細長くして、鶴の嘴に似たる所あるに基づくと云ふ。英語にて、此植物をストックスピル (Stock's-bill) と稱するは、亦實に此に由來するものとす。葉は通例對性にして、其形狀及び色彩は種類によりて一ならず。花は通例繖形花序をなし、其色には、種々の赤、白、并に赤、白二色の種々に混せるものなどあり。ペラルゴニウムの多數は、喜望峰の原産にして、歐洲へは、今を去ること大約三百年前に於て既に輸入せられ、我國へは近年に至りて始めて輸入せられたるものとす。歐洲へ輸入後は漸次改良せられ、特に近年は人工媒助によりて著しく改良せられて、年々多くの品種を作成するに至れり。現今栽培せらるゝ天竺葵の主なるものは、凡そ次の如し。

(一) 紋天竺葵 (Zonal Pelargonium or Horseshoe Geranium) は、主としてペラルゴニウムゾナレ (P. zonale, Willd.) と稱する種キルネーヌに由來するものにして、莖は肉質多漿なるも、基部は較や硬化し、嫩莖には多少の毛茸あり。葉は大抵心臟圓形にして、葉縁に鈍鋸齒を有し、葉面に馬蹄形の環紋あり。紋天竺葵の名蓋し之に因る(但し、此斑紋は、品種によりて、著しきものと否とあり。花は、一重又は八重にして、其色には種々の

天竺葵の種  
類  
一、紋天竺葵

赤と白との外、赤、白二色の種々に混せるものなどあり。尙ほ此種の天竺葵には、葉に黄色、白色、銅赤色等の斑紋又は覆輪を有するものあり、又狂咲 (Cactus) などもありて、品種甚だ多し。今左に其品種の主なるもの數種を擧げん。

- バンダレリア (Bandalairé) 紅地底白暈ボカシ、緋紋、一重、大輪
- クレイアモント (Claremont) 雪白、一重、大輪
- ドクトル、マグドナルド (Dr. Mac Donald) 緋色、一重、大輪
- フリユージェル (Flugel) 紅色、一重、大輪
- フラグモア (Flagmore) 緋色、一重、大輪
- フロリダ (Florida) 桃色地、薄紅胡麻紋、一重、大輪
- フィスカル、レフォーム (Fiscal Reform) 緋紅、一重、大輪
- グランヴィユ (Granville) 桃色、一重、大輪
- キングスウッド (Kingswood) 濃朱色底白暈、一重、大輪
- コバレブスケ (Kovalevske) 緋色底白、一重、大輪
- ルブルミエール (Le Premier) 桃色底白、八重
- ローレンス (Lawrence) 薔薇色、八重



ミセス、マリーランド (Mrs. Maryland) 緋紅色、八重  
 パリス (Paris) 白地紅絲覆輪、桃色暈  
 パーチー (Party) 朱色底白暈、一重、大輪  
 クキン、井クトリア (Queen Victoria) 薄紅底本紅暈、一重、大輪  
 レデー、スミス (Lady Smith) 極紅底白、八重  
 以上の外、カクタス咲(狂咲)には、次の數種あり。  
 ヒス、ハイネッス (His Highness) 緋色  
 スノー、ドロップ (Snow Drop) 白色  
 パラダイス (Paradise) 朱色  
 レデー、トムソン (Lady Thomson) 桃色  
 又斑入葉ゼラニウムには次の如きものあり。  
 丹頂の鶴 紅色の環紋ありて、葉綠白  
 地球錦 紅色の環紋ありて、葉綠黃  
 錦旗 紅色の環紋内は綠色にして、環紋外は黃白  
 眞鶴 青地薄黃覆輪、紅環

二、萬葉天竺葵

三光錦 黃地褐環  
 越の譽 青地白斑黑褐環  
 麒麟 青地黑環  
 玉冠 青地白覆輪  
 (二) 萬葉天竺葵 (Ivy-leaved Geranium) は、ペラルゴニウム、ペルタム (P. pelatum, Ait.) と稱する種に由來するものにして、其葉の形、蔦に類するを以て、此名あり。莖は蔓性なるがゆゑに、釣り鉢などに植ゑ、垂下せしめて觀賞するに適す。今之に屬する品種二三を擧ぐれば、次の如し。  
 レオパード (Leopard) 白地紅絞  
 ジャンダーク (Jeanne d'Arc) 白地櫻色暈、八重  
 ゼ、キング (The King) 紅色、八重  
 ゼ、クキン (The Queen) 本紅底黑紅絞、八重  
 ミセス、カンネル (Mrs. Cannell) 赤紫、一重  
 マダム、チボー (Madame Thibaut) 紅裏白、八重  
 ラ、エルガント (La Elegante) 白覆輪葉にして、花は白の一重



三、麝香天竺葵

(三) 麝香天竺葵 (Oak-leaf Geranium) は、ペラルゴニウム、クエルシフォリウム (P. quercifolium, Ait.)、ペラルゴニウム、グラエオレンス (P. graveolens, Ait.) 又はペラルゴニウム、ラヅラ (P. Radula, Ait.) に由来するものにして、莖は木質状をなして多漿ならず、葉は數箇に分裂し、之に觸るゝときは芳香あり、麝香天竺葵の名は、即ち此芳香あるによるものにして、英名オーク、リーフ、ゼラニウムは、蓋し葉形の櫛に類するものあるによる。我邦にて、一名、菊葉天竺葵と云ふも、亦葉形によりて名づけたるものとす、花の色には、紫、赤などあり。

四、大花天竺葵

(四) 大花天竺葵 (Large-flowered Show and Fancy Pelargonium) は、主としてペラルゴニウム、グランデフロラム (P. grandiflorum) に由来するものにして、花戸の間には、單にペラルゴニウムの名を以て知らる。葉は、大體に於て心臟圓形なるも、掌狀に分裂し、葉縁に鋭鋸齒あり、托葉著し、花は白又は紅色に濃紅色の條線を有し、上方の二瓣は下方の三瓣よりも幅廣くして、且つ其中心に深紅色又は濃紫色の斑紋あり。

栽培法 天竺葵を蕃殖するには、通例挿木の法を用ふれども、播種の法によりても亦苗を仕立つることを得るものとす。但し、播種法は、特に新品種を作らんとする場合に行はるゝを常とす。



ヒフアクチンテナバホオ 2.

ヒフアクチンテバタツ 1.



挿木は、温室又は木框を用ふるときは、殆んどすべての時季に於て行ふことを得れども、露地に於て之を行ふには、五六月乃至九月頃を以て最も適當となす。而して、挿木法を行ふには、略ぼ成熟せる枝、即ち稍や硬くなれる枝を選び、二三節宛に節の直下より切りて、挿穂となし、之をば、川砂と畑土とを約等分に混合して平鉢に盛れるものゝ中に挿し、夏季日照の強烈なる際には、日光の直射せざる場所に置き、萎凋せぬ程度に於て灌水すべし。甚しく過濕を忌むの性あり。然るときは、容易に根を發生し、芽も亦發育するがゆゑに、此に於て一本づゝ掘り取りて、徑三寸許の小鉢に移植し、根の其鉢内を充たすに至れば、更に較や大なる鉢に移植し、斯くして終に徑七八寸許の鉢に移植して開花せしむるを可とす。其小鉢にある間は、假令花蕾を着くるも、之を摘除して開花せしむることなく、専ら莖を養ふべし。但し、茲に注意すべきは、莖を養はんがため、妄りに多くの肥料を施し、又は灌水多きに過ぐるることなからんこと是なり。蓋し、過多の施肥と灌水とは、莖を徒長せしめて、分枝することなく、爲めに草姿を損するのみならず、着生する花蕾の數も亦甚だ少きの弊あるものとす。莖の伸び過ぎる際には、摘心して枝を發生せしむることあり。尙ほ、すべて移植の際は、暫くの間注意して、日光の直射を避け、苗の根



着くを埃つて始めて日光に當つるやうにすべし。又肥料は、植付の際、堆肥、灰の類を施す外、補肥として油粕の液肥を用ふるも、其量多きに過ぎざるやう注意すべきは、前述の如し、要するに、施肥は枝葉繁茂の状に顧みて、適宜加減すべきは、他の花卉に於けると一般なりとす。其他、夏季日照の強烈なる間は、露地と温室内とを問はず、すべて日光の直射を受けざるやう注意すること肝要なり。但し、日光の直射を防ぐがため、空気の流通をも害するが如きことなきを要す。又開花後は、其花を着けたる枝のまゝ切り去りて結實せしめざるときは、草勢旺盛にして、續々新芽を發生して開花するものとす。但し、新品種を得んがために播種法を行はんとする場合は例外とす。

天竺葵の播種法は、前にも述べし如く、新品種を作らんとする際に行はるゝものにして、之を行ふには、種子の熟するや否や、直に鉢に、土と砂とを約等分に混合して作れる土壌を盛りて、之に播種するなり。而して、種子の上には、殆んど土を被ふことなく、鉢の上には新聞紙などを被ふて、其紙の飛ばぬやうにし、日蔭の暖處にして、且つ雨のかゝらぬ處に置き、時々灌水して乾かしめざるときは、やがて發芽するなり。已にして、苗、稍や成長して、手もて摘み得るほどに至れば、他の平鉢に

一寸許の間隔を以て、一本づつ移植し、次に三寸位の小鉢に移し、此くして漸く大形の鉢に移植すること、挿木苗の場合に準ずべし。

天竺葵は、開花期間長くして、而かも栽培容易なる花卉なれども、耐寒性に乏しきは、其缺點とする所なり。即ち、此植物は、木框又は温室内に入れて越冬せしめざるべからず、而して其温度は、寒害にかゝらざる限りは、低温なるも支障なしと雖ども、冬季花を賞せんとするには、稍や温度を高めざるべからず。若し温室又は木框の設備なき場合には、枝幹を切りちゝめて、鉢のまゝ土中に埋め、其上に霜掩をなして越冬せしむべし。

冬季温室内に於て多く開花せしめんとするには、春挿木法によりて苗を仕立て、夏間は冷涼にして乾燥せる場處に置き、花蕾の發生を見ば之を摘除し、此くて十月末頃温室内に移し、室内の温度を夜間六十五度、晝間七十五度位に保つべし。尙ほ此際、室内は明くして且つ乾燥せるをよしとす。

## 第十八章 フューシヤ (フクシヤ)

フューシヤ (Fuchsia) は、柳葉菜科フクシヤ (Fuchsia) 屬、此屬名は、十六世紀の獨逸



植物學者フックスの記念のために命名せられたるものなり。の多年生草本又は灌木にして數十種を包含し、多くは中央及南亞米利加の産なり、我邦にてはツリウキサウなどと稱す。蓋し其花蕾の形狀は、恰も釣魚に用ふる浮木に類似するを以てなり。葉は通例對性にして、卵圓形、橢圓形又は披針形をなし、嫩莖葉柄等多く紅色を帶ぶ。萼は普通筒狀にして、其上方は四箇に分裂し、紅色、白色等を呈し、花瓣は紫色、紅色又は白色にして、兩蓋特に雌蕊は、通例、花の外に突出す。花は垂下して開くを普通とすれども、或種 (*Fuchsia arborescens*, Sims.) にありては直立して開花す。開花期間は、概して長く、晩春より晩秋に亘り、續々開花するもの多し。

フューシアの主なるもの數種を擧ぐれば、次の如し。

(一) フクシア、マゲラニカ (*F. magellanica*, Lam.) 此種に屬するものは、萼の筒狀をなす部分は、四箇の裂片となれる部分よりも短し、又花瓣は通例紫色にして、萼の赤き裂片よりも短く、雌雄蕊特に雌蕊は甚しく花瓣の外に突出す。此種は、フクシア中、古くより栽培せられたるものなり。

(二) フクシア、フルゲンス (*F. fulgens*, Moc.) 此種に屬するものは、萼の筒狀をなす部分は、裂片となれる部分よりも二三倍、又は其以上も、長し、萼及び花瓣は共に紅

フクシアの  
種類

色にして先端尖り、雌蕊は僅に花外に突出す。

(三) フクシア、スペシオザ (*F. speciosa*, Hort.) 此種は、一名フクシア、ヒブリダ (*F. hybrida*, Hort.) と稱し、フクシア、マゲラニカとフクシア、フルゲンスとの雜種によりて成れるもの、如し、萼の筒狀部と裂片部との長さは、通例略ぼ相等しとす。

(四) フクシア、アルボレッセンス (*F. arborescens*, Sims.) 此種の特徴は、普通のフューシアの如く、其花垂下せずして、直立するにあり、而して其花は紫色を帯びたる桃色を呈するを常とす。

フューシア  
の栽培法

栽培法 フューシアを蕃殖するには、挿木法を用ふるを普通とし、播種は、通例、新品種を作るときに用ふるものとす。挿木に用ふる枝は、花蕾を着けざるものを選び、之を川砂と畑土との混和したるものを入れたる平鉢の中に挿し、日除をなして、乾燥せざるやう注意すれば、やがて根を發生するがゆゑに、此に於て一本づつ小鉢に移して、培養し、後漸く大形の鉢に移すをよろしとす。移植の際、鉢の中に入らるべき土壤は、砂と粘土との割合宜しき土壤、即ち壤土の如きものに、厩肥などを混合し、堆積して、よく腐熟せしめたるものをよしとす。尙ほ鉢植となしたるものは、乾き易きが故に、時々灌水して、乾燥せざる様に注意すること肝要なり。補



肥としては、油粕などの液肥を與ふべく、一般に栽培上の手續は、天竺葵に準じて可なり。

フューシアも、亦天竺葵と等しく寒氣に堪ふるの力弱きものなるが故に、冬は温室又はフレームなどに入れて、溫暖に保つべく、之等の設備なき場合には、溫暖なる場所に穴を掘り、其穴の中に埋め置くをよしとす。但し、其際、枝幹を短く切り縮むべく、且つ其穴の上を藁などにて被ひ、以て寒害を防ぐべきこと、亦天竺葵に等し。

## 第十九章 アマモドキ

アマモドキは、其學名を *Nierembergia frutescens*, Dur. と稱し、茄科に屬する南米産(智利)の灌木狀草本なり。莖の高さ通例二尺内外に達し、細長にして亞麻に似たる葉を互生す。アマモドキの名蓋し茲に基づくなるべし。花は初夏より秋に亘りて開き、花形稍や桔梗に類す。花色は淡紫色を帶ぶ。

アマモドキ

**栽培法** アマモドキは鉢植并に花壇植に適し、耐寒性强きも、寒地にては冬間霜除を施すを安全とす。之を蕃殖するには挿木法によるを便とし、其季節は春秋

共に可なるも、秋九十月頃、普通の方法によりて鉢又箱などに挿木を行ひ、冬の到來するまでに十分發根せしめ、冬はフレームなどに貯へ置くべし。斯くて翌春に至れば、一本づゝ苗を抜き取りて、鉢植又は花壇植となすべく、土質は軽くして稍や肥沃なるを好むがゆゑに、鉢植に用ふる土壤の如きは、砂質壤土三分に腐熟せる堆肥一分を混じ、之に少許の細砂を混和したるものを可とし、花壇植の場合亦之に準ずべし。栽培容易にして、肥料の如きも特に多く與ふるの要なしと雖ども、時々稀釋せる液肥を施すときは、續々開花するものとす。

## 第二十章 ヘリオトロープ

ヘリオトロープ (*Heliotrope*) は、紫草科に屬するヘリオトロピウム (*Heliotropium*) 屬の多年生草本又は矮性灌木なり。該屬には百餘種ありて、主として熱帶又は亞熱帶地方に産す。就中最も普通に栽培せらるゝものは、ヘリオトロピウム、ベル并アナム (*H. peruvianum*) 并に其變種にして、英名をチェリー、バイ (*Cherry Pie*) と稱し、邦名をキダチルリサウと稱するもの是なり。此花草は、數多分枝して灌木狀をなし、其高さ通例一二尺なるも、温室の壁などに沿ふて整枝するときは、一丈位にも達

ヘリオトロ  
ープ



することあり。葉は互生にして橢圓狀披針形をなし、葉縁は鋸齒なく殆んど全縁にして、葉面に皺あり、莖葉共に多少の毛を有するを常とす。花は五瓣の小花にして、枝頭に數多着生し、藍紫色又は白色を呈す。花に芳香あるを以て俗に香水草とも云ふ。此花草は鉢植となして、温室又は居間などの裝飾に用ひられ、又切花として花束、盛花などを造るに用ひらる。

**栽培法** 此花卉は耐寒性弱きを以て、冬は温室又は木框内に保つべく、蕃殖は挿木によるを例とし、播種の法も亦用ひらる。之が栽培上の手續は、一般に、天竺葵・フューシアなどに準じて可なり。

## 第二十一章 マーガレット

マーガレット (Marguerite) は、一名パリス、デーシト (Paris Daisy) と稱し、菊科に屬する矮性の半灌木にして、學名をクリサンセマム、フルテツセンス (Chrysanthemum frutescens, L.)、邦名をモクシユンギクと云ふ。此花卉は其高さ二三尺許に達し、葉は多く互生にして羽狀に細裂す。花は枝頭に一箇づゝ生じ、其色白くして中心黄色を呈す。蓋し射出花白色にして盤狀花の黄色を呈するによるなり。花期甚だ長くし

マーガレット  
トの栽培法

て晩春より晩秋に及び、花壇植鉢植となして觀賞するに適するのみならず、切花として需要多し。

**栽培法** 此植物も亦花期甚だ長くして栽培容易なるがゆゑに、廣く觀賞の用に供せらるゝと雖ども、耐寒性弱く、露地にて越年せしめがたき缺點あり。されば、冬は温室又は木框内に入れ置かざるべからず。温室内にては冬と雖ども能く開花するがゆゑに、特に切花用として冬間温室内にて培養することあり。此場合には、温度を稍や高く保つゝの要あるも、單に越冬せしむる目的にて温室に入るゝ場合には、寒害の虞なき限り温度低くして可なり。此くて温室内にて越年せしめたるものは、翌春五月頃、降霜の虞なきに至りて、露地に移すものとす。蕃殖は挿木法によるを常とし、五六月頃より九月頃まで隨時之を行ふを得べく、温室内にては、冬と雖ども亦之をなすを得べし。要するに、之が栽培上の手續は、すべて天竺葵・フューシア等と異なることなし。

マーガレット  
トの栽培法

## 第二十二章 マツバギク

マツバギク (松葉菊) は、蕃杏科メセムブリアンセマム (Mesembryanthemum) 屬の多年



生草本又は半灌木にして、開花期間長く、栽培甚だ容易なるものなり、抑もメセム  
ブリアンセマムは、日中の花の意を有するものにして、蓋し、此花は、日光の照す間  
のみ開きて夜は閉ち、翌日再び日照を俟つて開き、此くして數日に及ぶの性ある  
による、英名ミッドデーフラワー (Midday Flower) も亦同一の義あり。

松葉菊は丈低くして、莖の下部は木本質を帯び、葉は線形多肉にして對生す、晚  
春の頃より晩秋に至るまで、續々葉腋より枝を分ち、其頂に一箇づ、菊花に似た  
る花を生ず、松葉菊中主要なるは次の三種なりとす。

(一) 通常種 蓋し松葉菊中、最も早く我邦に輸入せられ、且つ最も普通に栽培  
せらるゝものなり、葉はマツバボタンに似て、之よりも遙に肥大に、花は菊に似て  
桃色又は白色を呈す、草姿、稍や匍匐性なるを以て、釣鉢などに植ゑて觀賞するに  
宜しく、花壇植にも亦用ひらる。

(二) 小葉松葉菊 は、前種よりも葉形の細小なるものにして、草姿も亦前種に比  
して匍匐すること少きが如し、花形菊花に似て前種よりも小に、其色に紅紫、樺等  
數種あり、花壇植としては、前種に勝るが如し。

(三) 大葉松葉菊 は、通常種よりも遙に肥大なる葉を有し、通例黄色の菊花を開

栽培法 松葉菊を蕃殖するには、通例挿木法を用ひ、之に供する土壤は砂土を  
適當とす、而して挿木を行ふには、新梢を二三節に切りて、砂土を盛れる平鉢に挿  
し、細き目の如露にて灌水し、温室又は木框の中に入れ置くときは、容易に根を發  
生するものとす、挿木は灌水多きを忌むがゆゑに注意すべし、斯く温室又は木框  
内に挿木するには、秋季に至り、莖の餘り多汗ならざるを見て行ふべし、然るとき  
は、萎るゝ虞なくしてよく發育し、翌春見事なる株となるものなり、但し、此植物の  
挿木は、日除を設けざるも宜しく、又温室、木框などを用ふることなく、露地にて行  
ふも可なり、但し露地に挿木するには、春夏の頃に於てするを宜しとす、又此植物  
は、寒氣を恐るゝがゆゑに、冬は防寒に注意せざるべからず、されば、冬間は、低温の  
温室、寒害の虞なき限り低くして可なり、又は木框内に入れ、甚しく乾燥したると  
きは、午前中に少量の水を灌ぐべし、但し、冬間温室内にて開花を賞せんとするに  
は、較や温度を高くすべきこと、天竺葵などに準ず。



ランタナ (Lantana) は、邦名を七變化と稱し、亞細亞、亞非利加、亞米利加等の熱帯及び亞熱帯地方に自生する馬鞭草科の多年生草本又は灌木にして、五十餘種あり。其最も普通に栽培せらるゝものはランタナ、カマラ并に其變種にして、葉は倒卵形又は橢圓形をなして對生し、葉縁に鋸齒あり。莖は基部木本質にして硬く、嫩莖は草質にして軟なり。枝は葉腋より發生し、其頂に美女櫻に似たる小形の花を數多着生す。花の色彩は、紅、黃、白等にして、開花中種々に變化す。七變化の名蓋し茲に基づくものなり。花壇に植込む外、鉢植となして觀賞するに宜しく、温室内の裝飾にも用ひらる。

**栽培法** ランタナも亦前數種の花卉と等しく耐寒性弱きがゆゑに、冬は温室又は木框内にて越冬せしめざるべからず。而して之が蕃殖には挿木法を用ひ、六月頃より九月頃に於て之を行ふ。其法、當年發生の新梢を二三寸に切りて、細砂を盛れる挿木床又は平鉢に挿すものにして、天竺葵、フューシア、ヘリオトロープ等に於けると異なるなし。又冬期ランタナを入れ置く温室は華氏五十度位を保ち得れば足るべく、其間灌水は極少量に止め、成るべく午前中に與ふべし。斯くて翌年五月頃には室外に出して可なり。而して鉢植のものは、室外に出すと同時に、枝



ブーロトオリヘ 2.  
アエフーユキ 4.

トツレガーマ 1.  
ナタンラ 3.



を剪りとどのへ、灌水を漸次に多くし、補肥をも適宜與ふべし。

## 第二十四章 キユフエア

キユフエア  
の種類

キユフエア(Cuphea)は、千屈菜科に屬する多年生草本又は灌木にして、二百種内外を包含す。就中普通に栽培せらるゝものは次の數種とす。

(一)キユフエア、イグネア(Cuphea ignea, DC.) 此種は最も普通に栽培せられ、莖は一尺内外に達す。葉は平滑にして披針形をなし對生す。花は葉腋に一箇づゝ生じ、花瓣を缺く。萼は筒状にして紅色を呈し、先端僅に六裂す。夏秋の候續々開花す。

(二)キユフエア、シヤネア(Cuphea cyanea, Moc. & Sesse.) 莖は二尺位に達し、葉は稍や心臟形をなして對生す。花は萼の外に二箇の瓣あり。萼は基部紅色にして上部は黄色を呈し、花瓣は紫青色なり。花期は略ぼ前種に等し。

此外にキユフエア、フツケリアナ(C. Hookeriana, Walp.)、キユフエア、ミニアタ(C. miniata, Brongn.)等も亦栽培せらる。

キユフエア  
の栽培法

**栽培法** キユフエアは耐寒性弱きを以て、冬間は低温度の温室又は木框内に  
れ置かざるべからず。蕃殖は挿木によるを便とし、其法、天竺葵其他に準ず。栽培甚



水エドエ

入だ容易なり。特にキユフエア、イグネアの如きは矮性にして、花壇の縁植などとなすに好適するものとす。

水エドエ

花壇の縁植などとなすに好適するものとす。花壇の縁植などとなすに好適するものとす。花壇の縁植などとなすに好適するものとす。

第四類 花木類

第一章 牡丹

牡丹は其學名を *Paeonia Moutan*, Ait. と稱し、毛茛科に屬する落葉性灌木にして、

第百三十二圖 牡丹



高さ二三尺乃至五六尺あり、葉は通例二回羽狀複葉にして、互生し、小葉は多く淡綠色にして、少深裂し、且つ缺刻を有す。花は豊大にして、五月頃枝頭に開き、其色彩には紅、紫、白、絞等あり、根は肉質にして、藥用に供せらる。此花卉は支那の原産にして、其我邦に輸入せられたるは、遠く千有餘年の昔



なるが如し、而して其輸入せられたる當初は、牽牛子と等しく藥草なりしも、其花  
 艷麗にして觀賞に可なるを以て、何時しか花卉として栽培せらるゝに至れり、近  
 年歐米人の觀賞する所となりて海外にも輸出す。英語の Tree Peony は、即ち此牡  
 丹を指すものとす。攝津國池田地方は牡丹苗の産出を以て名あり。

**品種** 牡丹は古來支那并に本邦に於て、花の濃艶なるを以て賞せられ、之れが  
 培養に腐心したるがため、數多の良品種を産出するに至れり。現今栽培せらるゝ  
 牡丹の品種は、其數甚だ多く、到底茲に一々記述すること能はざるを以て、今其優  
 良なるもの數種を擧ぐれば、次の如し。

(一) 新神樂 花は千重咲又は萬重咲と稱し、花瓣幾層にも重なり、花色濃紅にし  
 て、花形甚だ豊大なり。  
 (二) 紅麒麟 花は前種と等しく、千重咲又は萬重咲にして、花の大き并に色彩も  
 亦前種に類す。

(三) 九重錦 花色は濃紅に淡色立絞にして、萬重咲なり。

(四) 太神樂 花は千重咲の大輪にして、本紅色を呈す。

(五) 華の錦 花は淡色に爪紅藤色の絞にして、千重咲なり。

(六) 月宮殿 花は萬重咲の大輪にして、雪白色を呈す。

(七) 崑崙獅子 花は濃紫色の千重咲にして、殆ど黒色を呈す。

以上の外神樂獅子獅子奮迅世々の譽、東鏡、日本紅、花の司、明石海、阿房宮、七福神、  
 世界圖(以上紅色)、雪重、白蟠龍、白雁翁獅子(以上白色)、花大臣、鎌田藤(以上紫色)、西行櫻、  
 八千代獅子(以上淡紅色)、錦梅、黒龍錦、麒麟錦、東絞(以上絞)等も亦牡丹中の良品種な  
 りとす。

**栽培法** 牡丹は炎熱多濕を忌むも、寒氣に堪ふる力割合に強く、且つ稍や乾燥  
 に堪ふるの性あり、之を蕃殖するには、接木の法を用ふるを常とし、其砧木として  
 は、下等の牡丹を用ひ、又芍藥の根に嫁接す。接木の期節は通例九月末頃なり、牡丹  
 は又播種によりて蕃殖す。是れ新品種を得んがために行はるゝものにして、其下  
 等なるものは、砧木に供せらる。播種法は芍藥に等しく、播種後六年位にして始め  
 て開花す。實生苗は此く開花すること遅きを以て、早く開花せしめんがため、播種  
 後三四年の秋、他の砧木に接木することあり。然るときは、大抵翌年に開花するも  
 のとす。牡丹は又分株法によりて蕃殖す。其法、親株の根元に發生する蘖を秋季に  
 分け取りて培養するものにして、實生苗よりも早く砧木に供しうるの利あり。即



ち實生苗は播種後約九年ほどにして砧木となすも、分株法によれるものは七ヶ年にして足ると云ふ。

牡丹苗を植付くるには、先づ地上數寸の高さに花壇を設け、其壇上三尺許の間隔を以て、植穴を掘り、之に培養土を入れ、基肥を施して、苗を一本づゝ植付くべし。植付期は九月中旬頃より十一月初旬頃までを適當とす。培養土としては、肥えたる畑土に、掃溜の篩土腐熟せる堆肥などを混じたるものを可とし、之に基肥として魚肥、油粕などの粉末を加ふべし。尙ほ植付の際には、接木の際に纏絡せる棕櫚繩を切去るべく、且つ接目の一二寸も地下に隠るゝほど深く植付くべし。植付後の手入としては、補肥として時々稀薄なる液肥を與ふべく、又砧木より發芽するものは、成るべく早く除去することに注意すべし。已にして花蕾稍や膨大せば、支柱を立て、倒れざるやうに保護し、且つ落花後は直に花梗を切り去りて結實せしめざるやうにすべし。但し種子を採收せんとするものは固より例外とす。尙ほ開花中は日覆を設くべく、花後には直に一回液肥を與ふべし。爾後も夏と秋とは各一回施肥し、更に開花前に一回液肥を與ふべし。液肥としては、下肥の腐熟せるものを稀釋して用ふるか、又は油粕、干鰯などの粉末を水に入れて腐敗せしめ、

其上澄を用ふるを可とす。其他の手入としては、盛夏の候、根元に藁刈草などを敷きて乾燥を防ぐか、又は屢々灌水すべし。一般に、牡丹は灌水の多きに過ぎざるを要するも、暑中は十分に灌水すべく、華時も亦毎夕少しづゝ灌水するを可とす。尙ほ秋落葉後には、根元に馬糞の乾燥せるもの又は堆肥などを施し、以て防寒の目的を達すると共に、其腐熟によりて多少の養分を供給するの便あらしむべし。

牡丹は、花壇植となす外鉢植となすことあり。鉢植とするには、直徑一尺以上の鉢を用ひ、先づ瓦片などにて底孔を塞ぎ、粗砂などを入れて排水に便したる後、花壇植に用ひたるが如き培養土に、細かさ川砂を多少混じたるものを入れ、花壇植に於けるが如き基肥を施して、苗木の接口五六分掩はるゝやう植付くべし。牡丹の根は長大にして折れ易きがゆゑに、日光に當て柔軟となしたる後、鉢の内に収むべし。灌水は植付後翌春迄は土壤の十分に乾くを見て與ふべく、夏の間は毎夕一度づゝ與ふべし。但し、過濕を忌むこと前きに述べたる如くなるを以て、水加減は特によく注意すべし。施肥其他の手入は花壇植に準ず。又鉢植となせるものは、落花後、畑土に鉢のまゝ埋め、油粕などを與ふべし。此際注意すべきは、鉢を埋むる場處の西日を受けざること、并に埋むる鉢の深さは、畑の地面と鉢内の土壤面と



相並行するほどなるをよしとすることは是なり、斯くて冬は根元に馬糞を施し、春に至り之を除きて液肥を與へ、開花前鉢のまゝ掘り出して、觀賞の用に供すべし。尙ほ花壇植となせるものは、成るべく移植せざるを可とするも、鉢植となせるものは、毎年九十月頃培養土を新にして植換ふるか、又は鉢の表土をば新しき培養土と取換ふるを可とす。又鉢植せる牡丹の花期を早めんと欲せば、一、二回霜に當てたる後、液肥を施して温室に移すべく、室内の温度は、當初五十五度位に保ち、六十度より六十五度位まで昇らしむるものとす。

牡丹の一種に、寒牡丹と稱するものあり、十一月頃より咲き始めて歳末茂始の頃に満開す。花色には紅紫、白等あり、普通の牡丹に準じて栽培すべし。

## 第二章 躑躅類

### 第一節 躑躅の種類及び品種

躑躅類は、石楠科ロドデンドロン (*Rhododendron*) 屬の灌木にして、其種類頗る多し。今先づ其主なるものを擧ぐれば、凡そ次の如し。

躑躅の種類

(一) 躑躅 (一名ヤマツボジ) は學名を *R. indicum*, Sw. var. *Kaempferi*, Maxim. と稱し、山地に自生する常綠灌木なるも、又庭園に植ゑて、觀賞に供す。葉は倒披針形又は倒長卵形にして、枝葉共に毛茸



第百三十三圖 ツ、ツ



第百四十三圖 マシリキ

を有す。花は漏斗状をなして四五月頃に開き赤色を呈するも、其園藝的變種には赤の外紫、白等種々の色彩あり。

(二) 石巖 (一名シマツボジ) は、其學名を *R. indicum*, Sw. var. *obtusum*, Maxim. と稱し、山地に自生する常綠灌木なるも、庭園又は鉢に植ゑて觀賞



すること多し、葉は倒卵形にして小く、互生すれども、多く枝頭に集生す、花は四月頃梢頭に簇開し、其形漏斗状をなす、花色は紅なるも、其園藝的變種には紅の外紫、白、絞等種々の色彩あるのみならず、花の大小、花瓣の單複等種々あり。

(三) 杜鵑花<sup>ツツジ</sup> は、學名を *R. indicum*, Sw.

var. *Macranthum*, Maxim. と稱し、前二種

と共に、多く庭園に培養せらるゝ常綠灌木にして高さ三尺餘にも達す、葉は橢圓形にして深綠色を呈し、枝と共に黒褐色の毛茸を有す、花は紅紫色又は白色にして、其形躑躅の花に類すれども、六月(即ち舊曆五月)に開くを以て異なりとし、サツキの名、亦此に基づくものとす。

(四) 羊躑躅<sup>ツツジ</sup>

は、學名を *R. sinense*, Sw. と稱し、山野に自生する落葉灌木なるも、往園地に培養せられ一名ウマツ、ジの稱あり、莖は其高さ五六尺に及び、葉は倒

キツサ 圖五十三百第



披針形又は倒長卵形にして毛茸を有す、花は四五月頃梢頭に簇開し、花色は黃色紅色等なり。

(五) モチツ、ジ は、學名を *R. ledifolium*, Don. と稱し、山野に自生する常綠灌木にして往々園地に培養せらるゝ、枝葉共に毛茸を被むり、葉は小枝の頂に簇生し、其形倒披針形にして頂端稍や尖り、葉面に多少の皺あり、花は四五月頃新葉に先ちて生じ、其色淡紅色にして、枝頭に簇生し、其萼并に花梗は腺毛を有して粘着す、是れ此名ある所以とす。

(六) リウキウツ、ジ は、學名を *R. ledifolium*, Don. var. *leucanthum*, DC. と稱し、觀賞用として園地に培養せらるゝ常綠灌木にして、莖の高さ三四尺に達し、多く分枝す、葉は披針形にして細毛を被むり、花は白色にして萼片より粘質を分泌す、此く粘質の分泌物あるによりて白色花を開く杜鵑花と容易に區別せらる。

(七) ウンゼンツ、ジ は、學名を *R. serpyllifolium*, Miq. と稱し、常綠の小灌木にして枝を分つこと多し、葉は本邦産の躑躅類中最も小なるものにして倒卵形をなし、花は小にして漏斗状をなし、枝頭に一箇づゝ開き、淡紅紫色を呈す、但し其變種シロバナウンゼンツ、ジ (var. *albiflora*, Makino) は白色花を生ず。



久留米躑躅の品種

此外ヨドガハツ、シ(R. ledifolium Don. var. narcissiflorum, Maxim)ヒカゲツ、シ(R. keiskei, Miq.)コエフツ、シ(R. quinquifolium, Biss. et Moore.)等亦栽培せらる。

久留米躑躅 我邦に栽培せらるゝ躑躅類中最も觀賞に値するは、久留米躑躅即ち石巖イシイワの園藝的變種なりとす。久留米躑躅は、天保年間、久留米藩の坂本元藏氏が始めて霧島の實生蕃殖を試みたる以來頗る改良せられたるものにして、品種の數甚だ多く、花の大小、色彩、咲方等種々あり、今先づ花の咲方につきて述べれば、凡そ次の如し。

(イ)猪口咲 とは花瓣濶大にして筒部稍短く、瓣端圓くして猪口形をなすものを云ふ。

(ロ)劍咲 とは花瓣狹長にして筒部長く、瓣端尖りて、劍狀をなすものを云ふ。

(ハ)并咲 とは以上二種の中間に位する咲方を云ふ。

(ニ)二重咲 とは花瓣重複して二重となり、内瓣と外瓣との二層あるものを云ふ。以上の咲方には、何れも一重咲と二重咲とあり。

(ホ)蓑咲 とは二重咲の一種なるも、外瓣の伸長不良にして、且つ其瓣端細裂し、内瓣の周圍に蓑をかけたるが如き狀をなす咲方を云ひ、多くは下等品とす。猪口

咲、劍咲、并咲の何れにも此咲方ありとす。

(ヘ)一本咲(一本眞) 雄蕊の發育不良にして花底に隠れ、雌蕊一箇のみ良く發育せるものを云ふ。一重咲に多し。

此の如く、咲方に種々の別あるのみならず、花の大きさに大小の差あり、花の色彩に濃淡種々なる紅紫并に白の外、絞、底紅、底白等の別あり。今久留米躑躅(錦光花)の品種中、良種を以て稱せらるゝもの數種を擧ぐれば、次の如し。

- 御代の譽 綠紫紅底曙白、一重
- 九重 綠紫底白、二重
- 龍田川 淡紅地本紅絞、一重
- 殿り 淡紅地紅絞、一重、蕊長く白し
- 筆塚 櫻色、二重、猪口咲
- 桂川 薄小豆色、一重、長蕊
- 蜀江錦 白地紅絞、二重
- 蝦夷錦 雪白地本紅絞、二重、大輪
- 通天 丹紅、一重

久留米躑躅の品種



摺墨	黒紫、一重
郭公	淡紅、一重
常夏	白地紅絞、一重
鴝の羽重	鴝色、底紅、二重
嵐山	醉白、一重
高砂	薄紅、二重
錦重	白地紅絞、二重
櫻重	綠紅、二重
相生	淡紅、二重
玉芙蓉	淡紅、一重、大輪
花吹雪	白地紅絞、一重、一本真
難波渦	綠紅、一重
吹繪形	綠薄紫、一重
雪の駒	雪白、二重
大和錦	白地紅絞、底青、一重

杜鵑花の品種

杜鵑花 杜鵑花は、久留米躑躅の花終りたる後に開花するものにして、品種亦頗る多く、盆栽又は地植となして貴重せらる。今其主なる品種を擧ぐれば、次の如し。

岩戸鏡	淡紅、二重、大輪
笑顏	桃色、一重
吾妻鏡	淡紅、二重
古今欄	淡紅地、濃紅絞、一重
末摘花	濃本紅、一重
青海	青白、二重、大輪
吳服	淡紅地紅絞、爪白、一重
羽衣	淡紅、一重
乙女	綠紅紫、一重
練絹	青白地紅紫絞、一本真、一重
高蒔繪	白地紫絞、一重、大輪

峯の雪 薄色に紅絞、大輪

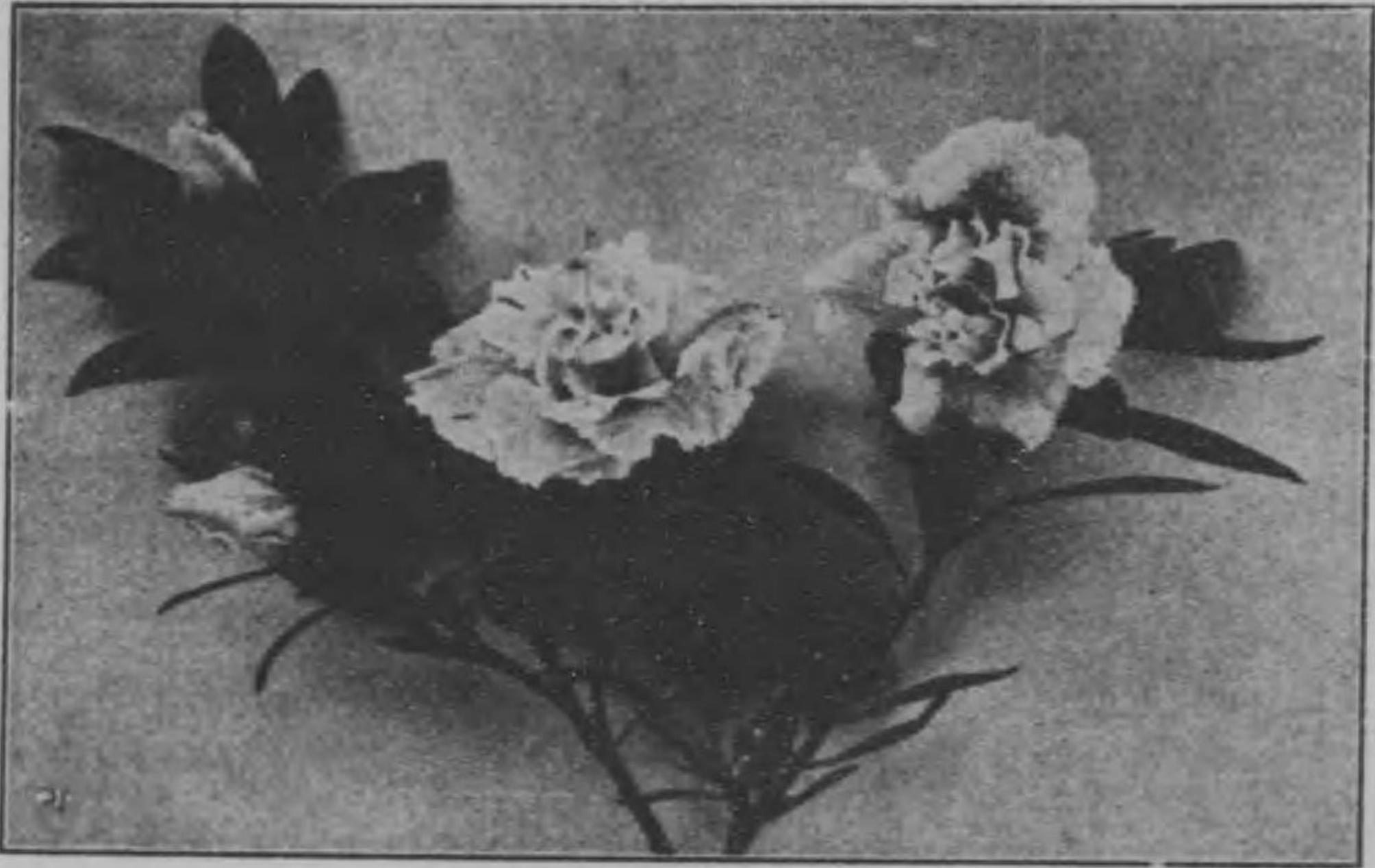


- 高嶺絞 前種に似たり
- 花の宴 紅、淡紅、絞等種々咲分、大輪
- 松島 白地紅絞
- 紅萬重 紅色、萬重
- 博多白 雪白、大輪
- 丁子 雄蕊の先端に小瓣あり
- 金麿 細切采咲にして、瓣の捲曲せるものもあり、紅色

西洋躑躅 近年アザレア(Azalea)と稱して白耳義などより輸入する躑躅は、俗に西洋躑躅と稱するも、元來本邦産のサツキの如き躑躅を、支那より輸入して改良したる常緑灌木にして、寒中温室にて培養するに適す。其來歴は、凡そ次の如し。アザレアの原種たる *Rhododendron indicum* (Azalea indica) の始めて歐洲に輸入せられたるは、千六百八十年に於て支那より和蘭に輸入せられたるを以て嚆矢となすものゝ如し。されど、此種は何時しか其跡を絶つに至りしが、千八百三十年に於てダニエルス(Daniels)氏が同じく支那より英國に向つて此種の輸入を試み、キングスロードの育種家ナイト(Knight)氏之を購入せしが、之には五品種ありしと

云ふ。爾後暫くの間、英國、佛國、白耳義等に於て接木、壓條等の法によりて蕃殖せる

アザレア 圖六十三百第



ものは、皆支那より輸入せるインヂカムの自然變種及び人工品種のみにして、實生によりて新種を作るの法は、千八百四十三年にギタツタム(Viattum)と稱する變種の輸入に始まると云ふ。斯くて雜種的變異を利用し、實生蕃殖を行ひしより、新品種續出し、現今特に多數の良品種を生産するは白耳義にして、同國ガンのエルエーヌ氏の如きは、近年に於けるアザレア育種家の泰斗を以て目せらる。而して同氏の作出せる良品種中、エルエーニアナ (*Vervaeiana*・エルエーニアナ、アルバ (*Vervaeiana* alba) の如きは、枝變りを利用して作出せるものなりと云ふ。

歐洲には右に述べたるアザレアの外に、ガン、アザレアと稱するものあり。小亞細亞原産の *Rhododendron flavum* (Azalea pontica) と稱する黄花種に諸種の米國種を



交配して作り出せるものにして、其品種亦頗る多し。ガン、アザレアは我レンゲツツジの如く耐寒性强き落葉灌木にして、白耳其のガンに於て盛に栽培して各國に輸出す。其蕃殖法としては、通例一年生の實生苗木を砧木となして、之に處要の品種を接合せしむるにあり。此外、我邦のレンゲツ、ジも、亦白耳義に於て栽培せられ、實生蕃殖によりて改良せられたり。

## 第二節 躑躅の栽培法

躑躅類の栽培法は大同小異なるを以て、茲には久留米躑躅の栽培法を主として述べれば、他は之に準じて知るべし。

久留米躑躅(キリシマ)は、本邦諸處に栽培せらるゝも、温和の氣候を好み排水佳良の地に適す。腐植質に乏しからざる壤土の如きは之が栽培に好適する土質なりとす。

久留米躑躅を蕃殖するには、挿木の法によるを普通とし、其時期は春彼岸頃にも可なりと雖ども、新梢の稍や硬化せる梅雨中を以て最適となすが如し、挿木をなすには、先づ蕃殖せんとする新梢の下部に前年生の枝一二寸を附して母

久留米躑躅  
の蕃殖法  
其一、挿木

株より切り取るべく、其切口の平滑なるべきは論を俟たず、斯くて、切り取れる挿穂の少數なるか、又は珍貴の品種なる場合には、鉢挿又は箱挿となすべく、其他は床挿となすを便とす。鉢挿又は箱挿をなすには、先づ鉢又は箱の底部に木炭の破片粗砂などを入れて排水に便ならしめたる後、篩別せる細微の腐植質壤土を盛り、適度に鎮壓して均平ならしめ、之に前の挿穂を一本づゝ挿し、目の極細き如露にて十分に灌水すべし。此くて挿木し終れる鉢又は箱は、雨のかゝらざる日蔭の場處に安置し、乾燥に失せざるやう時々灌水すべし。此場合に用ふる腐植質壤土は、畑土に落葉・藁などを混じて、長く堆積し置き、よく腐熟せしめて調製するをうべし。温床に用ひたる床土及び醸熱物を混和堆積して、良く腐熟せしめたるもの如きは最も佳なり。要するに、良く腐熟したる有機物の適度に混濁せる壤土をうることに注意すべく、未熟の有機物を混するが如きは、却て有害の結果を招くの虞あり。尙ほ腐植質壤土の代りに、砂質壤土又は砂土を用ひて挿木を行ふも可なれども、乾燥し易ければ、よく灌水に注意すべし。又床挿をなすには、過濕粘重ならざる蔭地を可とするも、蔭地の得られざる場合には、葎簀・蓆等にて日除を設くれば可なり。床地は幅三四尺長さ適宜となし、地面よりも六七寸高く設けて、よく



整地したる後、鉢挿に於けるが如く、相當の距離、挿穂の葉の僅に相觸接するを適度とす。一本づゝ挿すべく、挿穂の作り方は鉢挿に等し。但し、玉挿と稱し、挿穂の下端前年生の枝の部分、をば、赤土を固く練りたる球の中に挿し込みたる後、床土に挿すことあり。此法によるときは、活着特に佳良なりとす。挿木終れば、目の細き如露にて灌水すること、床挿に等し。此くて挿木床の上に設けたる日除は、十月頃に至れば之を除きて可なりと雖ども、冬季寒氣の烈しき地方にては、又藁、麥稈などに霜掩の設備をなすを要す。鉢挿又は箱挿にありては、特に霜掩を設けざるも軒下、椽下等に運び入るれば可なり。但し此場合には、適宜灌水して、甚しく乾燥に失せしむべからず。甚しく乾燥せるときは、午前中少量に灌水すべし。已にして、春暖漸く催ふすに至れば、活着せる挿穂は、茲に發芽の作用を始むるがゆゑに、早春發芽前に於て畑地又は鉢に移植して十分施肥すべし。

其二、接木法

久留米躑躅は、更に接木法、分株法、播種法等によりて蕃殖す。接木は主として誘接によるものにして、其砧木としては、ヨトガハツ、ジなどを用ふること多きも、其他の種類も亦砧木となす。其期節は、大抵發芽後入梅の間にして、活着せるものは、翌春發芽前に切り離すものとす。分株法は、落花後入梅の間に於て分取せんと

其三、分株法

第四、播種法

する枝の基部に切傷を附けて、よく培養するときは、やがて發根するを以て、此に於て分離して移植すべし。時に母株の根元に發生せる枝條中、既に自ら發根せるものあり。此の如きは、直に分取して移植するを得べし。播種法は、新品種の育成又は砧木の養成に用ひられ、現今の良品種は、此法によりて得たるもの多し。躑躅の種子は、品種によりて多少早晩の別あるも、大抵十月末頃に成熟するを以て、莢頭の少しく開きたるを見れば、直に採收して貯藏すべし。種子の採收遲きに過ぐるときは、種子脱落するの虞あり。此くて貯へ置ける種子は、翌春四月頃鉢挿となすべく、其法、先づ鉢の底に木炭の破片、粗砂などを入れて排水に便したる後、腐植質に乏しからざる砂質壤土を入れ、播種前よく土壤面を壓へ均らして、十分に灌水すべく、種子の上には極めて薄く土を被ふか、又は全く之を被ふことなくして、葎簀の下に安置し、水加減に注意すれば、播種後の給水は、鉢の底より吸水せしむるか、又は極めて目の細き如露を用ひて灌水すべし。容易に發芽するものなり。尙ほ降雨の際は、雨覆をなすか、又は軒下等に取り入れ、以て種子の流れ去らざるやうに注意すべし。此くて發芽せる苗は、適宜間引を行ひ、冬間は軒下、椽下又は室内などに取り入れて寒害を防ぎ、翌春より時々稀釋せる液肥を施して、管理其宜しきを



## 躑躅の移植

得るときは、其年内に三四寸となるを以て、其翌春、園地又は鉢に移植すべし。播種後三四年にして開花するものとす。

躑躅の移植は、落花後直に行ふを以て最も適當となせども、秋又は春に於てするも亦可なり。移植の際は、直根を切り縮め、且つ枝條をも適宜剪定すべし。

躑躅は、花園に植付くるも、鉢植となして觀賞する場合甚多く、特に良品種に於て然りとす。鉢植となすには、最初より大鉢を用ふることなく、順次大なる鉢に移すべく、其培養土としては、腐植質に富める壤土を可とす。而して、躑躅は、其性强光の直射を忌むを以て、日當り烈しき場處は、六月末頃より十月中頃まで、葭簾などにて日除を設くべし。

## 躑躅の施肥

躑躅の肥料としては、油粕などの液肥を與ふるを可とす。其法、油粕一升を一斗の水に入れて攪拌し、蓋をなして、よく腐熟せしめたる後、其上澄をば適宜稀釋して用ふべし。又油粕の代りに、魚肥、米糠などの液肥を用ふるも宜しく、何れも、よく腐熟せしめたる後、薄くして施すを肝要とす。尙ほ此種の液肥は、落花後土用の頃までに、適宜二三回施用する外、秋彼岸頃と早春とに各一回づゝ與ふるを可とす。但し其回数及び分量の如きは、樹勢に顧みて適宜斟酌すべく、且つ前記肥料の外

躑躅の整枝  
剪定

種々の肥料をも便宜施用して可なるものとす。

躑躅の樹姿は、自然の儘に放任するもあれども、鉢植となせるものは、往々傘仕立となす。傘仕立とは、樹姿圓くして、其中央を高くしたるものを云ふ。其法、先づ幹を一尺許の處にて切り、其切口に近く三四の枝を發生せしめて、之を四方に程よく配置し、やがて其枝の四五寸に伸長するや、更に之を一二寸に切りつめて二三の新梢を發生せしめ、之を水平に誘引すべし。二年目以後の剪定も亦之に準ず。但し、年と共に枝數漸く多くなりて手數を要すること多し。尙ほ此整枝式に於ては、支柱並に針金又は竹の輪を用ひ、枝條をば、適宜絲にて之に結び付け、且つ徒長せる枝梢を剪定して、處要の形狀に枝を配置するものとす。此くして、年々枝梢の剪定配置に苦心し、培養其宜しきを得ば、三四年の後には枝條密に發生して、華時には花球を生ずるに至る。傘仕立は茲に至りて完成するものにして、爾後は年々落花後に剪枝を行ひ、且つ遅くも土用迄に摘心を適宜に行ひ、以て樹姿を維持すると共に、各枝に花蕾を生せしむるやう努むべし。

開花前後に  
於ける躑躅  
の手入

美大の花を開かしめんとするには、十二月頃、適宜花蕾を間引くべく、やがて、花蕾の綻び始むるに至れば、徐に枝條を動かして、枯葉、鱗片を脱落せしめて、之を掃



除すべし。而して鉢植となせるものは開花期中、棚段の上に配置し、其棚の兩側と後方とは、簾にて圍み、天井には油障子を掛けて雨害を防ぎ、兼ねて日光の直射を遮るべし。然るときは、品種によりて多少の相異なるも、約三週間餘も觀賞することを得るものとす。

已にして、花色衰へ、花瓣の脱落するに至れば、花を摘除して、結實せしめざるやうにすべし。但し、實生蕃殖を行はんとするもの、摘花すべからざるは勿論とす。此くて摘花し終らば、鉢植せるものは、植替を行ふべく、其法、先づ鉢より抜きて、不要の根を剪り、且つ之と同時に枝梢の剪定をなして植付くべし。此際用ふる鉢は、根を容れたる際、根の周圍に少許の間隔を存するほど大なるものなるべく、根と鉢と密接するときは、夏季鉢の熱せらるゝ際、其影響を受けて根の害せらるゝ虞あり。鉢内に入るゝ土壤は、前きに述べたるが如し。

### 第三章 薔薇

薔薇(Rose)は、薔薇科ローザ(Rosa)屬の灌木にして、其種類頗る多く、歐米にては、花の女王を以て目するほど之を貴重し、其栽培甚だ盛なり。我邦にても、古來、庚申

薔薇、木香花、山椒薔薇等を多少栽培したるも、其花の色彩、香氣等、到底、歐米産の薔薇に比すべくもあらず。此に於て、維新後、歐米種を輸入すること漸く盛んにして、現今我邦に栽培せらるゝもの、其數頗る多きに至り、且つ年々増加するの勢を示せり。

#### 第一節 薔薇の種類及び品種

原種 ローザ屬の主要なる種名を擧ぐれば、凡そ次の如し。

(一) **ローザ、ムルチフロラ** (R. multiflora, Thunb.) 此種は本邦及び支那の原産にして、邦名ノバラ(野薔薇)又ノイバラと稱し、落葉性の灌木なり。枝は稍や蔓状をなし、刺は多く對生す。あり。高さは通例四五尺なるも、頗る長く蔓延することあり。葉は奇數羽狀複葉にして、通例五箇又は七箇の小葉より成る。小葉は橢圓形又は倒卵圓形にして、周縁に鋸齒あり。花は、六月頃、枝頭に數多發生し、其色白くして、五箇の花弁を有し、芳香あり。此種の變種には、紅色の花を開くものあり。

(二) **ローザ、バンクシエー** (R. Banksiae, R. Br.) 此種は英名を Banks' Rose と稱し、我邦にて木香花と稱するものに相當す。木香花は落葉性の灌木、防寒の装置をなせ



ば常緑となる)にして二十尺位にも攀登し、枝幹に刺なし。葉は通例三箇乃至五箇の小葉より成り、小葉の形は先端鋭き橢圓形にして、光澤を有し、葉縁に細鋸齒あり。花は五六月頃枝頭に數多生じ、其色黄色(黃木香)又白色(白木香)にして香氣あり、支那の原産とす。

山椒薔薇

イザヨヒバラ

(三) **ローザ、ミクロフィラ** (*R. microphylla*, Roxb.) 此種は本邦及び支那の原産にして、邦名をサンセウイバラと云ひ、落葉性の灌木にして、其形態は概して野薔薇に類す。莖は高さ五六尺に達して、多く分枝し、刺多し。葉は多數の小葉より成れる羽狀複葉にして、小葉は橢圓形又は卵圓橢圓形をなして尖り、葉縁に鋸齒あり。花は淡紅色にして往々單生し、萼片及び花梗に刺毛を密生す。花期は六月頃とす。彼のイザヨヒバラと稱するものは、本種の園藝的變種にして、花瓣數多重なりて美大なるも、常に其花輪の一方に缺所あるを以て此く名づけられたるものとす。

タカネバラ

(四) **ローザ、アシキュラリス** (*R. acicularis*, Lindl.) 此種は本邦並に歐亞の北部に野生し、邦名をタカネバラと云ふ(高山に産す)。莖は低くして刺密生し、葉は三箇乃至七箇の小葉より成り、小葉は橢圓形にして鋸齒著しく、花は單生にして濃紅色を呈し、芳香あり、萼片全縁にして且つ殆ど平滑なり。花期は五六月頃とす。

玫瑰

金櫻子

(五) **ローザ、ルゴザ** (*R. rugosa*, Thunb.) 此種は邦名をハマナス(玫瑰)と稱し、本邦及び支那に自生す(海邊の砂地に自生す)。莖は直立して三四尺の高さに達し、刺及び剛毛之に密生す。葉は五箇乃至九箇の小葉より成り、小葉は卵圓形にして、表面暗綠色を呈し、光澤に富み、裏面に絨毛を密生す。花は通例紅色單瓣なるも、栽培せるものには、白色のもの、重瓣のもの等あり、夏に開花す。

(六) **ローザ、レーギータ** (*R. laevigata*, Michx.) 此種はナニハイバラ(金櫻子)と稱し、蔓性の落葉灌木にして、枝條綠色を呈し、刺多し。葉は三箇の小葉より成れる複葉にして、小葉は卵圓橢圓形又は卵圓披針形をなし、葉縁に鋭鋸齒あり。五六月頃褐色の刺毛を密生せる花梗を生じて開花す。白色五瓣の大花にして、稍やツバキの花に似たり。變種には紅色の花を開くもの並に重瓣花を開くものもあり。

(七) **ローザ、キネンシス** (*R. chinensis*, Jacq.) 此種は英名を China Rose 又は Bengal Rose と稱し、我邦に於てカウシンバラ(月季花)又はチャウシュン(長春)と稱するものに相當し、通例常緑性の灌木なり。此種は支那の原産にして、莖は丈低く直立し、枝は細くして殆ど刺を有せざることあり。葉は三箇乃至五箇時に七箇の小葉より成り、小葉は卵圓乃至橢圓形にして尖り、葉縁に細き鋸齒あり。葉の表面は暗緑



色にして光澤に富み、裏面は淡緑色を呈す。花は數箇又は一箇づゝ生じ、其色濃紅、淡紅、白、黄、白等にして芳香を有し、花徑時に三寸位のものあり。此種には變種頗る多し。今其主なるものを擧ぐれば、次の如し。

フラグランヌ (Var. *fragrans*, Thory) 此變種は、其學名を別に *R. indica*, var. *odoratissima*, L. と稱し、英名を *Tea-scented Rose* or *Tea Rose* と稱す。花は通例鮭肉色又は淡紅色にして、香氣は次の變種よりも高し。

インヂカ (Var. *indica*, Koehne) 此變種は、其學名を別に *R. indica*, L. と稱し、英名を *Monthly Rose* と稱す。我邦の月季花は即ち是なり。莖は高さ四五尺に達し、刺を有す。花は紅色、白色等にして、四季に開花するを以て、シキサキイバラとも云ひ、又長春の名あり。

セムベルフロレンス (Var. *semperflorens*, Nichols) 此變種は、其學名を別に *R. semperflorens*, Curt. 又は *R. Bengalensis*, Pers. と稱し、英名を *Crimson Chinese Rose* と稱す。矮性の灌木にして細き暗緑色の枝梢を有す。小葉は薄くして多くは紫色を帯び、花は深紅色又は紅色にして、繊細なる花梗の上に生ずるを常とす。本邦にてポタンバラ(寶相花)と稱するものは是に屬す。

茶薔薇

庚申薔薇

寶相花

ヱトリヂフロラ (Var. *viridiflora*, Dipp.) 此變種は、英名を *Green Rose* と稱し、花瓣は狭小なる綠葉に變じ、綠色の花を開くを以て名あり。

(八) ローザガリカ (*R. Gallica*, L.) 此種は、堅立性の灌木にして、罕に五尺の高さに達す。小葉は三乃至五箇にして卵圓形をなし、葉縁に鋸齒あり、葉の表面には皺襞ありて裏面に軟毛あり。花軸には腺質の絨毛を有し、且つ往々刺あり。花は紅色又は深紅色を呈し、比較的強直にして、且つ腺質の硬毛ある花梗の上に生じ、直径二

ズーロスツモ 圖七十三百第



三寸あり、中央及び南部歐羅巴并に西亞細亞の原産にして、變種少からず。就中センチフォリア (Var. *centifolia*, Regel.) と稱する變種は、英名をキャベヂローズ (*Cabbage Rose*) と稱し、最も重要なものなり。此の變種は、人によりては、ガリ



カ種と別種なるが如く見なすものありと雖ども、其の實ガリカ種の園藝的一變種に過ぎずとす。

キャベード、ローズは、通例五箇の小葉より成り、小葉の兩面又は裏面に軟毛を生ず、花軸に刺なく、花は細長なる花梗の上に生じ、稍や垂下して開き、佳香を有す。花期は六七月頃とす、彼のモッス、ローズ (Moss Rose) と稱し、萼及び花梗に苔を着けたるが如き觀あるもの、并にボンボン、ローズ (Pompon Rose) と稱して小形の葉并に小形の重瓣花を有する矮性種は皆之に屬す。

(九) **ローザ、キッキユライアナ** (R. Wichuriana, Crep.) 此種は、邦名をテリハノイバラ、英名を Memorial Rose と稱し、本邦原野特に海濱に多く自生する落葉灌木にして、枝條は通例地上を匍匐す、葉は奇數羽狀複葉にして、小葉は卵圓形又は橢圓形をなし、光澤に富み、葉縁に鋸齒あり、花は夏間、野薔薇に後れて開き、白色にして芳香あり。

(十) **ローザ、モシヤタ** (R. Moschata, Mill.) 此種は、英名を Musk Rose と稱し、邦名をジャカウバラと云ふ、蔓性の落葉灌木にして、葉は五箇乃至七箇の小葉より成り、小葉は橢圓形又は卵圓形にして先端尖り、葉縁に鋸齒あり、花は白色を呈し、麝香

の如き芳香あり、是れムスク、ローズの名ある所以にして、花期は初夏の頃とす、南部亞細亞の原産なり。

(十一) **ローザ、ダマセナ** (R. Damascena, Mill.) 此種は、英名を Damask Rose と稱し、高さ四尺許に達し、多數の刺を有す、葉は五箇又は七箇の小葉より成り、小葉は卵圓形にして、裏面に多少の毛茸あり、葉柄に刺多し、花は大にして數箇簇生し、白色又は紅色にして芳香あり、其變種、エルシコロール (Var. Versicolor) は、小葉較や丸味を帯び、且つ黄色の斑條を有す、花期は六七月及び九十月頃にして、原産地は西亞細亞なりとす。

**園藝的類別及び品種** 薔薇を園藝的に類別して、其主要なるものを擧ぐれば、次の如し。

(一) **ハイブリッド、パーペチュアル、ローズ** (Hybrid Perpetual Rose) 此類に屬するものは、月季花の如きものに、ボルボン、ローズ、ダマスク、ローズ等を雜交せしめて作り出せるものにして、其莖は多く綠色を呈し、且つ其葉は五箇の粗なる小葉より成るを常とす、又此類に屬する薔薇は、香氣甚高きを常とし、之がために稱揚せらるゝこと多きも、中には香氣の甚低きものあり、例へばパロネス、ロスタヤイル



ド (Baroness Rothschild) ハー・マゼスチー (Her Majesty) の如き是なり。今此類に屬する品種數種を擧ぐれば、次の如し。

アベル、カリエル (Abel Carrière) 花は深紅色にして紫色を裝ふ。

アルフレッド、コロム (Alfred Colomb) 花は紅色にして球狀をなし、香氣甚高し。

パロネス、ロスチャイルド (Baroness Rothschild) 花は淡紅色にして香氣なし。發育盛なり。

ベン、カント (Ben Cant) 花は暗紅色にして發育盛なり。

キャプテン、クリスチー (Captain Christy) 花は桃色を呈す。邦名を桃園と云ふ。

シャルル、ルフェーヴル (Charles Lefebvre) 花は緋紅色にして香氣甚高し。強盛にして能く開花す。

ドクトル、アンドレー (Dr. Andry) 花は紅色にして香氣あり。發育盛なり。

デューク、オブ、エディンバラ (Duke of Edinburgh) 花は美紅色にして發育盛なり。

アール、オブ、ダッフエリン (Earl of Dufferin) 花は海老茶色にして香氣甚高し。樹勢旺盛なり。

フラウ、カール、ドルシユキー (Frau Karl Druschki) 花は白色にして發育強く、開

花盛なり。香氣少し。邦名不二と稱するものは、蓋し此種なり。

ヘレン、ケルレル (Helen Keller) 花は櫻色にして美なるも、樹勢強からず。

ポール、ネーロン (Paul Neyron) 花は桃色を呈す。邦名を陽臺夢と稱す。

ハー、マゼスチー (Her Majesty) 花は石竹色にして甚大なり。勢力盛にして香氣なし。

ミセス、ジョン、レイニング (Mrs. John Laing) 花は石竹色にして香氣あり。樹勢強くして開花甚盛なり。

ウルリッヒ、ブルンネル (Ulrich Brunner) 花は櫻色にして、球狀をなし。香氣高し。

樹勢強くして盛に開花す。

(二) チー、ローズ (Tea Rose) 此類は、ローザ、キネンシスの一變種に屬し、葉滑にして芳香ある花を開くものなり。一名チー、センテッド、ローズ (Tea Scented Rose) と稱す。蓋し、茶の如き芳香ある薔薇の義なりとす。此類の薔薇は、其嫩梢、大抵、赤色又は褐色を呈して美なり。是れ、前のハイブリッド、バーベチユアル類と異なる點にして、尙ほ本類の薔薇は、續々新梢を發生して之に開花するがゆゑに、能く續々として開花することも亦前類と異なる所なりとす。又該類は、花梗、前類よりも長くし



て挿花となすに適し、香氣は甚しく高からざるも、心氣を爽快ならしむ。花蕾の美觀を呈することも亦此類の稱揚せらるゝ一因にして、落花後十分に其枝を刈込むときは、却てよく開花するものなり。尙ほ、此類は耐寒性弱くして、冬間寒害に罹り易きを恐るゝ人あるも、次の如くするときは、寒地にても猶能く寒害を免れうべし。即ち秋の末に於て、株の根元に厚く盛土をなし、其上に厩舎の敷糞の如きものを被ひ置くときは、地上に露出せる上部は寒さのために傷つけらるゝも、下部は土中にありて何等の害を受くることなきを以て、初春に於て敷糞を株間に敷き込み、盛土を除きて莖の上部を剪り去るべし。然るときは、冬間土中に埋藏せられたる部分より強健なる新芽を發生して、美大の花を開くものとす。花色は多く淡紅、白、黄等なり。今チー、ロトズに屬する品種數種を示せば、次の如し。

・カテリン、メルメ (Catherine Mermet) 花は石竹色にして盛に開花す。地植并に鉢植に適する良種の一たり。

ドクトル、グリル (Dr. Grill) 花は薔薇色にして樹勢強く、開花盛なり。

フランシスカ、クリューゲル (Francisca Krüger) 花は深黄色にして樹勢強し。

グロア、ド、デジョン (Gloire de Dijon) 花は薄樺黄色にして邦名を千里香と稱す。

マリ、ヴァン、フーテ (Marie van Houtte) 花は薄黄色にして、淡紅色の覆輪あり、樹勢強くして開花盛なり。本邦にて金光殿と稱するもの蓋し此種なり。

スーヴニール、ド、ジ、ヌ、ギョー (Souvenir de J. B. Guillot) 花は紅色にして強盛、開花多し。

スーヴニール、ド、エス、ア、ブ、ラン、ス (Souvenir de S. A. Prince) 花は純白にして樹勢強し。

スーヴニール、ダン、アミ (Souvenir d'un Ami) 花は鮮薔薇色にして香氣強し。

サフラノ (Safano) 花は黄樺色にして邦名を西王母と云ふ。

ゼ、ブ、ライ、ド (The Bride) 花は白色(又は帶青黄色)にして鉢植并に地植に宜し。カテリン、メルメ種より出でたる變種なりとす。邦名雪見車は蓋し此種なり。

(三) ハイブリッド、チー、ローズ (Hybrid Tea Rose) 此類は前兩類の雜種によりて成れるものにして、近年特に著しく改良せられたるものなり。蓋し、前兩類は、既に殆ど改良の極に達したるが如き觀あるも、此類は比較的近年の成立にして、改良の餘地猶存するがため、此種の改良は近年特に多く企圖せらるゝものなりとす。概して、該類の薔薇は前兩類の特長を兼有するものにして、ハイブリッド、パーベ



チュアル、ローズよりは莖葉の色彩美しくして花期長く、而かもチー、ローズよりは強健にして、花色豊富なるものなり。要するに該類は樹勢強健にしてチー、ローズの如く春の芽生の色美しく(チー、ローズには劣るも)開花盛にして花輪大に、而かも花の色彩鮮美なるものなり。固より、該類はチー、ローズに比して花蕾の美觀較や劣り、ハイブリッド、パーベチュアル、ローズに比して花の美大なること較や劣る所あるも、亦自ら固有の美を有し、花梗長くして插花に適し、且つチー、ローズの如く常に生長しつゝ、開花を繼續するの性あり。今該類に屬する品種數種を示せば、次の如し。

アントアン、リヴァール (Antoine Rivoire) 花はクリーム色にして、中心橙色を呈し、樹勢甚強くして、開花盛なり。

オーグスタン、ギヌアサウ (Augustine Guinoisseau) 花は大にして銀色を帯べる石竹色を呈し、樹勢甚強し。ラフランス種より出でたるものとす。

グリュッス、アン、テブリッツ (Grüss an Tepitz) 花は深紅色にして香氣高し。樹勢強くして殆ど常に開花す。

ラフランス (La France) 花は淡紅色にして、邦名を天地開と稱す。

ベッチー (Betty) 花は鵝色に紅黄色を帯ぶ。邦名を羽衣と稱す。

ジョセフ、ヒル (Joseph Hill) 花は鮭肉色に黄色のボカシにして、邦名仙翁と云ふ。カイゼリン、オーガスタ、ギクトリア (Kaiserin Augusta Victoria) 花は純白にして中心黄色を帯ぶ。邦名を敷島と稱するもの是なり。

キラルネー (Killarney) 花は淡紅色を呈す。邦名を洛陽と稱するもの是なり。

ミセス、ダブリユー、ジェー、グラント (Mrs. W. J. Grant) 花は薔薇色にして香氣あり。開花盛にして美なり。

ベツシー、ブラウン (Bessie Brown) 花は乳白色にして、邦名を神樂と稱す。

グレース、ダーリング (Grace Darling) 花はクリーム色にして石竹色を裝ひ、樹勢強くして開花盛なり。

(四)ヌアゼット、ローズ (Noisette Rose) 此類は一名チャムブニー、ローズ (Champney Rose)と稱し、ローザ、キネンシスとローザ、モシヤタとの雜種にして、多くは夏及び秋に開花す。此類に屬する薔薇は、蔓性にして、多くの花を簇生す。次の品種あり。

エメー、ヴィベル (Aimée Vibert) 花は白色にして良く開花す。柱などを裝飾するに宜しく、殆ど常緑性なり。



アリスター、ステラ、グレイ (Alister Stella Gray) 花は淡黄色にして、夏より秋に亘りて開花す、柱及び壁を裝飾するに適す。此外金孔雀、瑞寶等亦之に屬す。

(五)モツス、ローズ (Moss Rose) 此類はキャンディー、ローズ (Cabbage Rose) の一變種にして、其學名を R. Gallica, L. var. muscosa, Ser. と稱し、萼及び花梗に苔を附したるが如き觀あるを以て、其特徴となす。苔薔薇の名蓋し茲に基つくなり。

(六)ポリアンサ、ローズ (Polyantha Rose) 此類は、ローザ、ムルチフロラに由來するものにして、蔓性種に屬し、小花を叢生す(房咲種)。アーチ、柱等を裝飾するに適す。小町紅 (Crimson Rambler) の如き品種は之に屬す。

以上の諸類中、(一)乃至(四)は多く四季咲、夏秋兩季に咲くものにして、(五)と(六)とは一季咲(夏咲)多きが如し、而して、現今本邦に於て栽培せらるる薔薇には、其原名并に類別の明かならざるものあるを以て、茲には、單に四季咲と一季咲とに分ち、其優良にして栽培し易きもの數種を掲ぐることにすべし。

(甲)四季咲薔薇の主要なるものは、凡そ次の如し。

- 旭の空 (叢性、本紅、千重、大輪)
- 日光 (中幹、木性、八重、大輪、香氣高し)

(一) 紅色花を開くもの

- 鶴頂紅 (蔓性、極紅、千重、大輪)
- 聖代 (大幹、叢性、桃色、八重、大々輪)
- 丹頂 (大幹、叢性、極紅、八重)

(二) 淡紅色の花を開くもの

- 羽衣 (長幹、木性、鵝色地に黄色交り、八重、最大輪)
- 櫻鏡 (最長幹、木性、八重、大輪)
- 還城樂 (叢性、八重、最大輪)
- 天地開 (叢性、桃色、千重、大々輪、有香)
- 陽臺夢 (叢性、桃色、千重、最大輪)
- 不二 (最長幹、木性)

(三) 白色花を開くもの

- 白帝城 (中幹、木性、萬重、大輪)
- 驪山の月 (最長幹、木性、八重、大輪、香氣高し)
- 西王母 (最長幹、木性、大輪)
- 美香登 (中幹、木性、樺黃、八重、大輪)
- 瑞寶 (中幹、木性、八重、大輪)

(四) 樺色の花を開くもの

- 金碧 (長幹、木性、花は朱銅色にして、異彩あり、大々輪)



(五) 黄色花を開くもの(華寶殿中幹、木性濃黄、千重、大輪)  
(乙) 一季咲薔薇の主要なるものは、凡そ次の如し。

香世界(蔓性、雪白、八重、小輪)

大輪木香(蔓性、雪白、千重、中輪)

(一) 白色花を開くもの  
白木香(蔓性、雪白、千重、小輪)

白波戸家(蔓性、白、一重、大輪)

白雲(蔓性、白、一重、小輪)

磨墨(蔓性、濃紅、香氣高し、八重、大輪)

五大洲(蔓性、極赤、千重、大輪)

緋ノ司(蔓性、緋色、千重、中輪)

黒牡丹(蔓性、黒紅、八重、大輪)

緋絨(蔓性、極紅、八重、中輪、房咲)

赤波戸家(蔓性、赤、一重、大輪)

金司香(蔓性、黄色、千重、小輪、香氣高し)

金孔雀(蔓性、樺黄色、八重、大輪)

(三) 黄色又は樺色の花を開くもの

(黄木香(蔓性、黄色、千重、小輪))

第二節 薔薇の栽培法

薔薇の播種

薔薇の蕃殖には播種・挿木・壓條・接木等あり。就中播種は新品種の育成又は砧木の養成などに用ひらる。特に雜種法によりて收めたる種子を數多播下する場合の如きは、新品種を作出するの望多かるべし。尙ほ、枝變りを利用して接木を行ふも亦新種を得るの法たり。

薔薇の種子は乾燥すれば發芽力を損するがゆゑに、播種期まで乾燥せざるやう貯ふるの要あり。其方法としては、果實採收後、直に果實を破碎して種子を採集すべく、其種子は水洗して、成るべくよく肉片などの附着せるを除きたる後、布袋などに入れて土中に埋め置くを可とす。又採收せる果實を其儘土中に埋藏し、翌春播種の候に至り掘り出して、腐敗せる果肉を洗ひ去り、種子のみ集めて播下に供するも可なり。播種期は三四月頃を可とし、肥沃の土壤を盛れる苗床に點播すべく、其法は他のものに於けると異なるなし。此くて床面の乾かざるやう注意するときは、四十日位にして發芽すべし。發芽後は時々稀釋せる液肥を施して培養



すべく、翌春は幹の基部二三芽を残して剪定したる後移植し、よく培養すべし。播種によりて仕立てたる苗は、多く三年目時に二年目より開花するがゆゑに、其中より自己の要求するものを選び接木によりて増殖すべし。但し、第一回の開花によりて直に其苗の良否を判定するときは往々失敗に陥るがゆゑに、尙ほ二三年花を檢したる後、良種を選択して之が繁殖を圖るを安全とす。

挿木には、露地に於てするものと、温室又は木框内に於てするものとの二種あり。前者は野薔薇、庚申薔薇などの如き砧木用のもの其他下等の品種を蕃殖するに用ひられ、上等の品種を挿木蕃殖するには後者によらざるべからず、露地に於ける挿木は春秋二季及び梅雨期に行ふを得べく、春挿しは二三月頃芽の少しく動き始めたる頃に於て、前年生枝梢の成熟せるものを採り、一尺内外に切りて、豫ねて準備せる床地に三四寸ほど挿し、厩肥、糞などにて床の面を覆ふべし。挿木用床は、春秋兩季に於ては、園土と砂とを半々位に混合したるものを用ふるを可とし、梅雨期には園土二三分に砂七八分を混じたるものを用ふること可なるが如し。又上等の品種を温室又は木框内にて挿木せんとするには、秋に於てするを可とし、本年生枝梢のよく成熟せるものを採り、二三寸に切りて、其下部を利刀にて

正しく切り直したる後、細砂を盛れる挿木床に挿し、葎簀にて日光を遮り、時々適度の灌水をなして乾燥を防ぐときは、約四十日にして大抵發根するがゆゑに、一本づゝ丁寧に掘り揚げて、培養土を盛れる小鉢に一本づゝ移植し、其冬は冷床中にて越冬せしめ、翌春に至りて、更に大なる鉢に移すか、又は露地に植付くるを可とす。又梅雨期、秋季などに露地挿をなさんとするには、生籬建物などの北側に於てするか、又は葎簀等にて日蔽を設けたる下に於てすべし。

接木は上等の品種を蕃殖するがため最も普通に行はるゝ蕃殖法にして、枝接、芽接の兩法あるも、就中本邦に於て多く採用せらるゝは枝接中の切接法なりとす。砧木としては、本邦にては主に野薔薇と庚申薔薇とを用ひ、歐米にてはドッグ、ローズ (*R. canina*, L.)、マネットチー、ローズ (*R. chinensis*, Jacq. var. *Manetti*, Dipp.) などを用ふ。砧木は野生の野薔薇を掘り取りて用ふるも可なれども、通例挿木又は播種によりて蕃殖せるものを用ふ。切接の時期は春秋二季并に梅雨の候にして、春接は二三月頃、秋接は八九月頃をよしとし、其方法は果樹などの接木と異なることなし。かくて接ぎ了らば、春接の場合には、成るべく硝子障子を架せる木框内に植込み、厚く日覆をなし、日を経るに従つて漸く日覆を薄くし、芽の伸長する頃には全



く日覆を去り、やがて露地に移植するを可とす。又初より露地に植込む場合には、二尺ほどの間隔を以て作條を設け、其條内に於て四五寸の距離に一本づゝ、接穂だけ露出せしめて植込み、各穂の上には夫々鉢を倒置して日覆となすを可とす。元來薔薇は砧芽の發生し易きものにして、之を放任するときは、接穂の勢力を殺ぎ、遂に其枯死を來たすの虞あるがゆゑに、嫁接後は、よく注意して、砧芽の除去に努めざるべからず。斯くて早春接木せるもの愈々癒着するときは、其春の中に、新梢に開花するを見るべく、又梅雨の頃又は秋早く接ぎたるものも、四季咲なれば、其年内に花を見ることを得べし。

芽接は、本邦にては、切接の如く廣く行はれざるも、歐米にては之を採用すること多し。其時期は七月上旬より八月上旬までを可とし、砧木には實生の若きものを用ふべく、接合の方法は果樹などの芽接と同様なりとす。

薔薇は、花壇植によく、又鉢植に適し、蔓性のものはアーチ・トンネルなどを造り、格子籬柱などに纏はしむるに可なり。薔薇花壇を造るに當りて、第一に注意すべきは土質及び位置なり。薔薇は、肥沃にして排水よく且つ稍や粘質なる壤土を好み、日當り風通しよくして而かも風の強く當らざる位置に植付くるに適す。而し

て腐植質土・火山灰土・砂土などの如く輕きに失する土壤には粘土の如きものを加へ、粘重に過ぐる土壤には砂其他の輕き土壤を加へて改良するを可とす。花壇の形狀は庭園の狀態、栽培者の嗜好等によりて一ならざるも、花草の場合に於けるが如き複雑なる形を避け、長幹仕立のもの、中幹仕立のもの、矮性仕立のものをば夫々配合よく植込むべし。其植付時期は早春又は晩秋を可とし、寒氣の烈しき地方にては春植となす方安全なるべし。植付の距離は品種によりて一ならざるも、長幹仕立は約三尺位、矮性仕立は一二尺を適當とす。植付の際は方二尺深一尺位の穴を掘り、基肥として、よく腐熟せる厩肥に骨粉・灰(骨粉の代りに過燐酸石灰を用ふるも可なり)などを加へたるものを施して、穴底の土壤によく混和したる後、苗の根を擴げて苗を直立せしめ、根の上に土を被ひ、軽く根元の土壤を鎮壓して十分に灌水すべし。此際、苗の植付は深きに失せざるやう注意すべく、且つ長幹仕立のものには支柱を支ふべし。爾後甚しく乾燥せば適宜水を灌ぐべく、又寒氣の烈しき地方にては冬間霜掩をなすを可とす。斯くて毎年春には土地を耕して、腐熟せる厩肥に骨粉・灰などを混じたるものを施し、爾後油粕・魚肥の液肥又は下肥などを時々施すを可とす。



薔薇を鉢仕立となすには、先づ鉢の底に砂利と木炭屑とを半々位に混じたるもの、又は鉢の破片瓦片などを薄く敷き入れて排水を良くしたる後、其上に豫ねて準備せる培養土を鉢の半ばほど入れ、其上に苗を真直に立てて土を被ひ、根の間に土の十分に入り込むやう、指頭などにて良く鎮壓し、細目の如露にて灌水すべし。培養土の調製は一定せざるも、荒木田の如き粘質の壤土五分に砂二分と極めて良く腐熟せる堆肥此堆肥中には少しく燐酸肥料を加へ置くを可とす。三分位を混和せば可なり。鉢は素焼を可とし、且つ當初は徑五六寸のものを用ひ、薔薇の繁茂するに従つて漸く大なる鉢に移し、遂に徑一尺位の鉢に及ぶものとす。植付の時期は花壇植に等し、手入としては、油粕魚肥などの液肥又は下肥などを稀釋して時々施すべく、夏季は又特に灌水に注意すべし。尙ほ虫害を防ぐがため、時時枝葉を検して害蟲の卵幼蟲等を發見せば、速に驅除すべし。

鉢植の薔薇は毎年植換を行ふべく、其期節は植付の時期に等し、植換を行ふには、先づ鉢を叩きて根株を「ハチ」根と土との鉢形に固まれるもの(のまゝ)取り出し、其「ハチ」の表土一寸位も削り去り、更に「ハチ」の周囲の土壤を六七分ほど削り去りたる後、別の植木鉢に移植すべし。其際、鉢の底には砂利木炭屑などを入れて排水

に便ならしめたる後、培養土を少しく入れて、其上に「ハチ」を安置し、培養土を以て空隙をよく填充するを可とす。尙ほ此際用ふる培養土には、豫め油粕米糠などを少許混和して、良く腐熟せしめ置くを可とす。

鉢を置く場處は、成るべく日當りよき處を可とし、冬期寒氣の烈しき地方にては、鉢のまゝ翌春三月頃まで土中に埋め置くを可とす。概して黄色白色の花を開くものは、紅色の花を開くものよりも寒氣に弱きが如し。

剪定 剪定は、薔薇の栽培上甚大切なる手入にして、之を怠るときは、樹姿亂雜となりて外觀悪しきのみならず、不要の枝梢によりて養分を徒費せられ、美大の花を開くべき枝の發育を害するの弊あり。されば、花壇植たると鉢植たるとに論なく、すべて剪定を施すを肝要とす。之れがためには、其時期と方法とに注意すべく、徒に枝梢を刈り込むは却て害あり。剪定の時期は、通例三月初より四月初頃までにして、品種によりて多少遅速あるも、越年せる芽の漸く膨みて將に開かんとする時を可とす。剪定の標準は、先づ密に過ぎたる部分の枝、并に枯死せる枝などを除き、且つ古枝其他弱勢の枝を極めて短く剪り込むべし。蓋し、古枝其他弱勢の枝は強勢の新梢を發生し難く、従て美大の花を開かしめ能はざるを例とするが



ゆゑに、之等は其基部の一二芽を残して切り去るを法とす。枝梢密生の虞ある場合には全く剪除することあり。而して新枝の強勢なるものは、最も大切の枝なるも、其伸長せるまゝに放置するときは、樹姿を亂すのみならず、強勢の新梢を発生せしめて、之に美大の花を開かしむるに適せざるがゆゑに、通例適宜剪定するを要す。但し、其剪定法は、品種并に仕立方によりて一ならざるものにして、例へば蔓性種を格子籬又は園亭などに誘引せるものは、僅に枝端を剪除するに過ぎざるも、多くは枝端を半分ばかり剪除するか、又は各枝二三芽を残して短く剪定し、以て強勢の枝を発生せしむるものとす。尚ほ四季咲種にありては、春咲の花褪色せば、其落下を待たずして、花下二三枚の葉と共に切り去るべし。然るときは、切口に近き二三の腋芽発生して開花するものなり。但し、此二番枝は一本又は二本に止め、他を除き去るべし。其他、夏間、新梢密生して鬱閉を來たすときは、適宜夏季剪定を行ふべく、砧木より発生する芽は、常に注意して剪除すべし。

## 花卉園藝終

## 附録

### 「マタ、ハン」椰子栽培 目論見 收支計算

三神敬 長氏 調査

「マタ、ハン」(Matuhin) 耕地の状態及其價格

一、位置 「タヤバス」州(Tayabus)「ムラナイ」村(Muranyi)字「マタ、ハン」に在り、「マニラ」市を距る約四十五里なり。

一、地勢 東、北、西三方に風害を防ぐ可き格好の山岳あり、南方は開きて海面を望み自由に海風に接す。此れ椰子樹の生育に偉効あるものなり。

耕地の全部は幅十五間餘の小河を以て圍繞せられ、其半路程は吃水四呎餘の小蒸汽船を通航せしむること可能にして、生産品を海岸碇泊中の本船に積込む可き舟楫の便あり。

一、既開墾地 約廿町歩

椰子樹植付後十四ヶ年を経過したるもの壹千參百五拾本及び二ヶ年を経過したるもの壹千貳百本なり。

一、未開墾地 約四百八拾町歩

全體雜草の原野なり。

一、購買價格 耕地の全面積約五百町歩にして、其購買價格金壹萬五千比貨(我約壹萬五千圓)即ち一町歩當り卅比貨の割なり。

備考比律賓の通貨壹比貨は我約壹圓に當り、又土地の面積壹「ヘクター」(Hectare)は我壹町廿四步即ち約壹町強に當る。

「マタ、ハン」耕地に於て椰子樹栽培收支豫算  
椰子は熱帶植物の隨一にして、當群島に於ける最も重要な商業的生産品として、北米合衆國並に全歐洲諸國に於ける需要額は年々増加して停止する所を知らず、此れ即ち椰子實の乾果「コブラ」と稱するものなり。其他枝葉等一として棄つ可きもの



なし而して之れを植付け其結實を見るに至るまで数年の月日を要するを欠點ありと雖も其結實期に達するや少なくとも八十年の壽命を保有して最も的確に利益を提供するは他の有用植物に發見する能はざる特色なり。  
「タヤパス」州は氣候風土比律賓群島中椰子栽培の最適地にして全州の大半は此樹の生育を以て充たされ居るを見る尙群島コブラ輸出總額の過半は實に本州の生産するものなり故に「マタ、ハン」耕地に於ける椰子栽培業の目論見は亦良好の成績の擧ぐ可きこと毫も疑ふの餘地なし。

第一期開墾貳百五拾町歩椰子植付數貳萬五千本一町歩に付百本宛の割合なり。

#### 收支計算

##### 第一年支出

- 一、耕地購買價格 五百町歩(一町卅比貨宛) 一五、〇〇〇比貨
- 一、開墾費用 貳百五拾町歩(一町拾五比貨宛) 三、七五〇〇  
「第一期開墾貳百五拾町歩は雜草の原野なるを以て之れを焼き拂ひ一度鋤き返せば栽培充分にして開墾實に容易なるものとす而し水牛八頭を有する八人の勞働者は能く一町歩を耕すを得可く其賃金は一人(水牛使用料をも含む)壹比貨五拾仙とす即ち壹町歩の開墾費は  $1150 \times 2 = 2300$  にして此外雜役人夫の毎町三人使用するものとして參比貨(一人七拾五仙の割)合計拾五比貨を要す。」
- 一、苗木 貳萬五千本代(一本六仙宛) 一五、〇〇〇  
「種子苗の四ヶ月乃至六ヶ月養育して完全に發芽したる苗木は普通一本四仙より五仙見當なるも此れを充分に見積りて一本六仙と計上す。  
即ち  $4P0.06 \times 25000 = P1,500$  なり」
- 一町歩に付百本の苗木植付(植付間隔十米突にて一町の面積百米突平方)にて貳百五拾町歩は貳萬五千本を植付け得
- 一、植付費 貳萬五千本(百本四比貨宛) 一、〇〇〇比貨  
「植付費は地方により差異あれば「ラダナ」州(Ladanga)及び「タヤパス」州の中部附近に於ては百本毎貳比貨五拾仙より參比貨を支拂ふもこれを安全に見積りて四比貨と計上せり。」

#### 一、耕作機具 農具及銃器代小銃二挺 四〇〇比貨

「一般に使用する例へば鋤、鋤、鎌、斧、ボロ刀其他除草器全部を參百比貨と見積れば足る可く此れに銃器二挺を百比貨とす銃器は有害動物撃滅に用ひ兼て監督者の護身用に充つ」

#### 一、水牛及馬匹輸入費 水牛五頭馬匹二頭 六〇〇比貨

「開墾運搬及び耕作作用とは貳百五拾町歩の面積に水牛五頭(一頭百比貨の割)馬二頭(一頭五拾比貨の割)は一見過少なかるが如きも開墾用には雇人夫附屬の水牛を役するに付牛馬七頭なれば其他の雜役には充分なりとす水牛は野に放ち置けば雜草によりて自活するにより別に飼養の費用を要せず」

#### 一、除草耕作費 一町歩に付五比貨 一、五〇〇比貨

「椰子樹栽培地方に於ては苗木植付後各拾町歩に對し一家族の土人小作人を入れ爾後四ヶ年間椰子畑に陸稻及び玉蜀黍等の間作を爲さしめ其收穫の半分を給與するの習慣なるを以て今茲に此收穫の全部を與へ外に一町歩に付一ヶ年五比貨を給すれば事足る即ち  $P50 \times 250 = P12,500$  なり外に  $P2500$  を加へ  $P15,000$  とす。」

一町歩より得る間作の陸稻は最低拾八「カバン」(「カバン」は我參斗五升に當る)の稻を收穫し得るが故に一町歩よりの實收米玄米は其半數九「カバン」を得故に拾町歩より九拾「カバン」の玄米を收め此一「カバン」貳比貨五拾仙の價格とし右一家族一ヶ年廿五比貨の收得となる可く之れに除草耕作費壹町歩に付五比貨の割にて給與せらるれば一家族一ヶ年の實際収入は貳百七拾五比貨となるなり」

#### 一、監督者給料 一人全耕地支配人 三、〇〇〇比貨

「開墾、植付、耕作等の監督者監除費、使用人又は小作人督勵其他諸般の取締を爲す可き適當誠實なる監督者一人を要す給料月貳百五拾比貨は高きに過ぐるが如きも避地に何等の娛樂もなき不自由なる耕地に永く留地して熱心斯業に従事せしむるものなるを以て特別の特遇を與ふるを要す然らざれば適任者を得ること至難なりとす」

#### 一、住宅及倉庫

一、二〇〇比貨

「監督者住宅一棟五百比貨小作人居住所十棟五百比貨(一棟五十比貨の割)及び倉庫一棟貳百比貨と計上せり」

#### 一、井戸開墾費 飲料水用堀抜井戸一個 五〇〇比貨



「衛生設備なき避地にては完全なる飲料水缺乏するを以て堀抜井戸を開鑿すること最も必要なり」

一、雇人夫 常雇一箇年分給料 一、二〇〇比貨

「廣大なる耕地を監督するには一人の監督者にては手不足の點多きを以て相當の智識を有する者、働を兼ね併せ監督者の助手として三人を雇入れ一ヶ年一人分四百比貨を支拂ふと計上せり」

一、臨時費

一、五〇〇比貨

「臨時費の中には橋柵費及び監督者住宅用家具買入費其他地租税、農具破損及其補充費應急備付藥品費其他の消費費を計上す」

一、果實採集及び「コブラ」製造費 三五四擔 四〇四〇比貨

「梗子實の採集費は地方によりて差異あれども「タヤパス」州にては各千個に付壹比貨を支拂ふ採集後「コブラ」に仕上るまで同じく千個に付貳比貨五拾仙を支拂ふ故に千個の製造費は計參比貨五拾仙とす即ち千個參擔半の製造費一擔に付壹比貨の割合なるも之を充分に見積りて四比貨と見て壹擔の割當壹比貨拾四仙に計上するときは千三百五十本より果實採集及「コブラ」製造費は  $P_{100} \times 354 = P_{1040}$  とす

合計 三一、五五四比貨

第一年收入

一、椰子樹數 十四年生

一、三五〇本

一、椰子果實數

一〇一、二五〇個

内輪に見積りて一本より七拾五個を生ず

一、壹千個より三擔半を産す

三五四擔

一、壹擔を八比貨として

二、八三二比貨

第二年支出

一、小作人除草耕作手當 一町歩五比貨の割

一、五〇〇比貨

一、補充苗代 前年度植付苗の内一割枯死と見て

三〇〇比貨



欠



# 欠

## ケ

ケイトウ . . . . . 497-499  
ケシ . . . . . 414-417  
ケシザキアネモネ . . . . . 272  
ケマンサウ . . . . . 530-531  
ケマンボタン . . . . . 530-531

## コ

コウワウサウ . . . . . 436  
ゴエフツツジ . . . . . 592  
コスモス . . . . . 500-501  
コダイヘンイ(筒笹変異) . . . . . 13, 35  
コツクス、コム . . . . . 497  
コツテザ、チユーリツプ . . . . . 256, 257  
コリウス . . . . . 9, 156  
コルチカム . . . . . 176  
コルレット、ダーリア . . . . . 380  
コルン、フラワー . . . . . 399

## サ

サギゴケ . . . . . 161, 510-511  
サクユリ . . . . . 363  
サクラサウ . . . . . 513  
ササユリ . . . . . 365  
サシキ(挿木) . . . . . 92-99  
サツキ . . . . . 590  
ザツシユヘンイ(雑種変異) . . . . . 16  
ザツシユ(雑種)による品種改良 . . . . . 27-33  
サンシキスミレ . . . . . 392  
サンセウイバラ . . . . . 606  
サンブンキ(撒粉器) . . . . . 138

## シ

シウメイギク . . . . . 279  
シオン . . . . . 162  
シキザキイバラ . . . . . 608  
シキザキサクラサウ . . . . . 519  
シクラメン . . . . . 187, 216-225  
シクラメンザキスキセン . . . . . 205  
シタツギ(舌接) . . . . . 87  
シチヘンゲ . . . . . 580  
シナズキセン . . . . . 212  
シネラリア . . . . . 403  
シバ . . . . . 159  
シヤガ . . . . . 347  
シヤカウテンザクアフヒ . . . . . 568  
シヤカウナテシコ . . . . . 526  
シヤカウバラ . . . . . 610  
シヤカウレンリサウ . . . . . 421-427  
シヤクヤク . . . . . 531-535  
シヤダンハフ(遮断法) . . . . . 157  
シヤノヒゲ . . . . . 159  
シヤパニース、プリムローズ(クリ  
ンサウに等し)  
シヤーマン、イリス . . . . . 176, 179  
シヨウ、ダーリア . . . . . 372  
シヨクセツザイ(觸接劑) . . . . . 139  
シヨクモツイウサツハフ(食物誘殺法) . . . . . 137  
シヨングイル . . . . . 212  
シユンケイ(純系) . . . . . 36  
シレネ . . . . . 409  
シンニンギア . . . . . 306  
シンシユ(浸種) . . . . . 63  
セウサツハフ(燒殺法) . . . . . 138  
ス  
スウオード、リリー . . . . . 349



スカシユリ . . . . . 364  
 スカピオザ . . . . . 438  
 スズラン . . . . . 528-530  
 スターフロックス . . . . . 407  
 スゲイリアヤメ . . . . . 347  
 ストックス、ビル(セラニウムに同じ) . . . . .  
 ストック . . . . . 395  
 スナツブ、ドラゴン . . . . . 543  
 スノー、ドロップ . . . 171, 172, 179, 180  
 スハマサウ . . . . . 278  
 スキセン . . . . . 200-216  
 スキートピー . . . . . 421-427  
 スキレン . . . . . 324-338

セ

セイヤウサクラサウ . . . . . 515  
 セイサンガス(青酸瓦斯) . . . . . 146  
 セイサンカリ(青酸加里) . . . . . 149  
 セイサンカクウエ(正三角形植) . . . 109  
 セイシ(整枝) . . . . . 135  
 セキイウニウザイ(石油乳劑) . . . 139  
 セツクワイホルドーイキ(石灰ホ  
 ルドー液) . . . . . 150  
 セツクワイユウウガフザイ(石灰  
 硫黄合劑) . . . . . 141  
 セヒ(施肥) . . . . . 113-130  
 セヒランテス . . . . . 360  
 センゴン(剪根) . . . . . 132  
 センゴン(纏根)ペゴニア . . . 315-317  
 センシ(剪枝) . . . . . 131  
 センシユ(選種) . . . . . 59  
 センシヨイウサツハフ(潛所誘殺法) . 137  
 センシユギク . . . . . 435  
 センテイ(剪定) . . . . . 130

セント、プリジツド、アネモネ . . . . . 273  
 セントーレア . . . . . 399  
 センニチサウ . . . . . 443  
 センニンゴク(ヒモケイトウに等し) . . . . .  
 セラニウム . . . . . 563-571

ソ

ソギツギ(殺接) . . . . . 84  
 ソーダ、ホルドー液 . . . . . 153  
 ソーナル、ペラルゴニウム . . . . . 564  
 ソー、プレツド . . . . . 216  
 ソロモンス、シール . . . . . 176

タ

タウキンセン . . . . . 394  
 タウシヤウア . . . . . 349  
 タカトリハフ(高取法) . . . . . 100  
 タカネバラ . . . . . 606  
 タケシマユリ . . . . . 366  
 タチテンモンドウ . . . . . 159  
 タツチ、ミー、ナツト . . . . . 448  
 タツフオザル(スキセンに等し) . . . . .  
 タテキズ(縦傷) . . . . . 133  
 タニマノヒメユリ . . . . . 528-530  
 タマザシハフ(玉挿法) . . . . . 95  
 タマスケ、ローズ . . . . . 611  
 タマダレ . . . . . 360  
 タメトモユリ . . . . . 363  
 ターリア . . . . . 370-386  
 ターキン、チューリツブ . . . 256, 264

チ

チエリー、パイ . . . . . 575  
 チー、セントツド、ローズ . . . 608, 613

チヤイナ、ローズ . . . . . 607  
 チヤウシユン . . . . . 607  
 チヤーマン、イリス(イリス、ゲルマ  
 ニカに等し) . . . . . 176, 179, 180, 348  
 チューリツブ . . . . . 250-269  
 チョウキクカヨウセキイウニウ  
 ザイ(除蟲菊加用石油乳劑) . . . 140  
 チョウキクセツケンガフザイ(除  
 蟲菊石鹼合劑) . . . . . 144  
 チー、ローズ . . . . . 608, 613

ツ

ツギキ(接木) . . . . . 82-91  
 ツギキザツシユ(接木雜種) . . . . . 91  
 ツギミサウ . . . . . 162  
 ツギラフ(接續) . . . . . 89  
 ツクバネアサガホ . . . . . 419-421  
 ツタバテンゲクアフヒ . . . . . 567  
 ツツシ . . . . . 588-604  
 ツリウキサウ . . . . . 572

テ

テコラチグ、ダーリア . . . . . 374  
 テツボウユリ . . . . . 364  
 テリハノイバラ . . . . . 610  
 テンクワイウサツハフ(點火誘殺法) . 136  
 テンゲクアフヒ . . . . . 563-571  
 テンゲクボタン . . . . . 370-386  
 テンニンギク . . . . . 163, 164

ト

トクザイ(毒劑) . . . . . 145  
 トコマキ(床播) . . . . . 74-80  
 トシヤウ(土壤) . . . . . 37-51

トム、サム、ダーリア . . . . . 382  
 トラムベツト、ダツフオザル . . . 203  
 ドラモンド、フロックス . . . . . 407  
 トリキ(壓條) . . . . . 99  
 トリテレア . . . . . 234  
 トリトニア . . . . . 172, 175, 296  
 トリトマ . . . . . 338  
 トリプレツト、リリー . . . . . 234  
 トリー、ペオニー . . . . . 584  
 トレニア . . . . . 431-433

ナ

ナスターチユム . . . . . 427-429  
 ナデシコ . . . . . 162  
 ナニハイバラ . . . . . 607  
 ナルシツサス . . . . . 200-216  
 ナンキンアヤメ . . . . . 348

ニ

ニハセキシヤウ . . . . . 160  
 ニホヒアラセイトウ . . . . . 511  
 ニホヒスミレ . . . . . 506-507  
 ニフオファイア . . . . . 338  
 ニリウクワタンソ(二硫化炭素) . . 148  
 ニリンサウ . . . . . 279  
 ニンフエア . . . . . 324-338

ヌ

ヌアセツト、ローズ . . . . . 617

ネ

ネザシ(根挿) . . . . . 99  
 ネゲアヤメ . . . . . 347  
 ネツギ(根接) . . . . . 87



ネマハシ(根廻シ) . . . . . 107  
 ネメシア . . . . . 439-440  
 ネモフィラ . . . . . 396

ノ  
 ノイバラ . . . . . 605  
 ノウゼンハレン . . . . . 427-429  
 ノバラ . . . . . 605

ハ  
 ハイブリッド、チー、ローズ . . . . . 615  
 ハイブリッド、パーペチュアル、ロ  
 ーズ . . . . . 611  
 ハイヤウド(培養土) . . . . . 55-57  
 ハウチハマメ . . . . . 540  
 ハクテウケ . . . . . 158  
 ハクヒ(剥皮) . . . . . 67  
 ハゲイトウ . . . . . 498  
 ハザン(葉挿) . . . . . 97  
 ハサミザシ 挾挿( . . . . . 96  
 ハシユキ(播種期) . . . . . 68  
 ハシユキ(播種式) . . . . . 67  
 ハシユ(播種)ノ深度 . . . . . 70  
 ハシユ(播種)ノ分量 . . . . . 73  
 ハタザシ(畑挿) . . . . . 92  
 ハチウエ(鉢植) . . . . . 110-113  
 ハチザシ(鉢挿) . . . . . 93  
 ハチマキ(鉢播) . . . . . 80-81  
 ハツター、カツプ . . . . . 282  
 ハナガサ(ビザヨザカラに同じ) . . . . .  
 ハナカタバミ . . . . . 229  
 ハナサフラン . . . . . 196-200  
 ハナシヤウブ . . . . . 341-346  
 ハナビシサウ . . . . . 417-418

ハーバシアス、ペオニー(シヤクヤ  
 クに等し) . . . . .  
 バビアナ . . . . . 297  
 ハマナス . . . . . 607  
 バラ . . . . . 604-628  
 バリス、デージー . . . . . 576  
 ハルサフラン . . . . . 196-200  
 バルサム . . . . . 447  
 ハルシヤギク . . . . . 442  
 バルボコヂユム . . . . . 176  
 バンクス、ローズ . . . . . 605  
 バンジ . . . . . 392  
 パーロット、チユーリツブ . . . . . 256, 265

ヒ  
 ヒイロアネモネ . . . . . 275  
 ヒエンサウ . . . . . 401-403  
 ヒカゲツツジ . . . . . 500  
 ビコチー、ボツピー . . . . . 416  
 ビザール、チユーリツブ . . . . . 257-259  
 ビジンセウ(カンナに同じ) . . . . .  
 ビザヨザカラ . . . . . 541-542  
 ヒツペアストラム . . . . . 299-303  
 ヒナギク . . . . . 507-508  
 ヒナゲシ . . . . . 416  
 ビブレメン、チユーリツブ . . . . . 257-259  
 ヒマハリ . . . . . 499  
 ヒメクチナシ . . . . . 156  
 ヒメユリ . . . . . 367  
 ヒメシヤガ . . . . . 347  
 ヒメツゲ . . . . . 156, 158  
 ヒモケイトウ . . . . . 498  
 ヒヤクニチサウ . . . . . 433-435  
 ヒヤシンス . . . . . 236-250

ヒラミツド花壇 . . . . . 157  
 ヒレウ(肥料) . . . . . 113-130

フ  
 フアンシー、ダーリア . . . . . 373  
 フオアゲツト、ミー、ナツト . . . . . 411-414  
 フォルシス鉢挿 . . . . . 94  
 フォルマリオン . . . . . 154  
 フクシア . . . . . 571-574  
 フクジュサウ . . . . . 502-505  
 フダノマンジウ . . . . . 216  
 フザボタン . . . . . 530-531  
 フテケイトウ . . . . . 498  
 フユザキペゴニア . . . . . 318  
 フューシア . . . . . 571-574  
 フリージア . . . . . 289-292  
 フリーダー、チユーリツブ . . . . . 258  
 プリムラ . . . . . 512-525  
 プリムローズ . . . . . 516  
 フレンチ、マリーゴールド . . . . . 436  
 フロックス . . . . . 406-409  
 プロザエーア . . . . . 233  
 プロバリア . . . . . 162, 163, 164  
 フローリスツ、チユーリツブ . . . . . 256, 257  
 フンムキ(噴霧器) . . . . . 138

ヘ  
 ヘーオニア . . . . . 531, 583  
 ペオニー、ダーリア . . . . . 379  
 ペゴニア . . . . . 310-324  
 ペチユニア . . . . . 419-421  
 ペニバナサルギア . . . . . 444-445  
 ペビー、プリムローズ . . . . . 518  
 ヘリオトロープ . . . . . 575-576

ベルベナ . . . . . 541-542  
 ヘンイ(變異) . . . . . 13  
 ベンガル、ローズ . . . . . 607

ホ  
 ホースシユー、セラニユム . . . . . 564  
 ホウセンクラ . . . . . 447-448  
 ホウライシユリ . . . . . 362  
 ホーダー、カーネーション . . . . . 526  
 ホシザキアネモネ . . . . . 274  
 ホシザキスキセン . . . . . 206  
 ホタン . . . . . 583-588  
 ホタンケシ . . . . . 415  
 ホタンバラ . . . . . 608  
 ホツピー . . . . . 414  
 ボツピー、アネモネ . . . . . 272  
 ボリアンサス . . . . . 515  
 ボリアンサス、ナーシツサス . . . . . 210  
 ボリアンサス、ローズ . . . . . 618  
 ホルドー液 . . . . . 153  
 ホンド、リリー . . . . . 324  
 ホンボン、ダーリア . . . . . 371  
 ホンボン、ローズ . . . . . 610

マ  
 マーガレット . . . . . 576-577  
 マツバギク . . . . . 577-579  
 マツバボタン . . . . . 449-450  
 マツムシサウ . . . . . 438  
 マリーゴールド . . . . . 435-438  
 マルメーション、カーネーション . . . . . 527  
 マンジユギク . . . . . 435

ミ



ミオツチス . . . . . 411-414  
ミスミサウ . . . . . 278  
ミヅウエハフ(水植法) . . . . . 108  
ミニアチユア、ダーリア . . . . . 382  
ミムラス . . . . . 536-539

ム

ムギナデシコ . . . . . 400  
ムギワラギク . . . . . 442  
ムシトリナデシコ . . . . . 409  
ムスカリ . . . . . 225-228  
ムスク、ローズ . . . . . 611  
ムラサキツユクサ . . . . . 161, 162

メ

メキズ(芽傷) . . . . . 133  
メセムブリアンセマム . . . . . 577-578  
メツギ(芽接) . . . . . 82  
メンデリズム . . . . . 17

モ

モウセンクワダン(毛氈花壇) . . . . . 155  
モクシユンギク . . . . . 576-577  
モチツツジ . . . . . 591  
モツカウバラ . . . . . 605  
モツス、ローズ . . . . . 610, 618  
モリトリハフ(盛探法) . . . . . 100  
モンカタバミ . . . . . 231  
モンキー、フラワー . . . . . 536-539  
モンテンゲクアフヒ . . . . . 564-567  
モントブレチア . . . . . 359

ヤ

ヤグルマギク . . . . . 399

ヤグルマテンニンギク . . . . . 430  
ヤマシヤクヤク . . . . . 532  
ヤマツツジ . . . . . 589  
ヤマユリ . . . . . 362

ユ

ユウテフクワ(サンシキスミレに同じ) . . . . .  
ユリ . . . . . 361-369

ヨ

ヨドガハツツジ . . . . . 592  
ヨビツギ(誘接) . . . . . 87

ラ

ラツキヤウアヤメ . . . . . 341  
ラツバザキスキセン . . . . . 203  
ラナンキュルス . . . . . 282-289  
ラナンキュラス、ボツピー . . . . . 416  
ラファイア . . . . . 88  
ランタナ . . . . . 580

リ

リウキウツツジ . . . . . 591  
リウノヒゲ . . . . . 159  
リボン花壇 . . . . . 157  
リリ1、オブ、セ、ブレ . . . . . 528-530

ル

ルカウサウ . . . . . 448-449  
ルピナス . . . . . 540  
ルーピン . . . . . 540

レ

レクチファイド、チューリップ . . . . . 259

レックス、ペゴニア . . . . . 320  
レムブランド、チューリップ . . . . . 257, 264  
レンゲツツジ . . . . . 590

ロ

ロベリア . . . . . 446-447  
ローズ、チューリップ . . . . . 257-258  
ローマン、ヒヤシンス . . . . . 238

ローレン、ペゴニア . . . . . 318

ワ

ワスレナグサ . . . . . 411-414  
ワリツギ(割接) . . . . . 85

キ

キンター、アコナイト . . . . . 179, 180



索引の二

A

Adonis . . . . .	502
African Marigold . . . . .	435
Agapanthus . . . . .	226
Ageratum . . . . .	429
Agrostemma . . . . .	400
Alkali Soil . . . . .	51
Allium . . . . .	226
A'pine Forget-me-not . . . . .	412
Alstromeria . . . . .	226
Amaranthus . . . . .	498
Amaryllis . . . . .	299
Amateur Horticulture . . . . .	7
Anemone . . . . .	191, 269-279
Anemone-flowered Dahlia . . . . .	381
Antirrhinum . . . . .	542
Archelirion . . . . .	362
Armeria . . . . .	508
Asparagus . . . . .	159
Azalea . . . . .	596
Bengal Rose . . . . .	607
Bending . . . . .	134
Bizarre Tulip . . . . .	257
Bizarres . . . . .	526
Bordeaux Mixture . . . . .	150
Border Bed . . . . .	156
Breeder Tulip . . . . .	258
Border Carnation . . . . .	526
Broad Casting . . . . .	67
Broad-leaved Garden Anemone . . . . .	274
Brodiaea . . . . .	233
Budding . . . . .	82
Bad Variation . . . . .	16, 34
Bulb . . . . .	171
Bulbocodium . . . . .	213
Bush . . . . .	424
Buttercup . . . . .	282
Buxus . . . . .	158
Bybloemen Tulip . . . . .	257

B

Babiana . . . . .	297
Baby Primrose . . . . .	518
Balsam . . . . .	447
Banks' Rose . . . . .	605
Barbadoes Lily . . . . .	301
Begonia . . . . .	310-320
Bellis . . . . .	507
Bell Jar . . . . .	94

C

Cabbage Rose . . . . .	609, 618
Cactus . . . . .	565
Cactus Dahlia . . . . .	375
Caen Anemone . . . . .	273
Calendula . . . . .	394
Californian Poppy . . . . .	417
Calliprora . . . . .	234
Canna . . . . .	386
Cape Cod Water-lily . . . . .	331
Cardiocrinum . . . . .	361

Carnation . . . . .	525
Carnation Poppy . . . . .	416
Carpet Bed . . . . .	155
Celosia . . . . .	497, 498
Centaurea . . . . .	399
China Rose . . . . .	607
Chinese Primrose . . . . .	518
Chromogen . . . . .	24
Chromosoma . . . . .	26
Chrysanthemum . . . . .	544, 576
Cineraria . . . . .	403
Clay Soil . . . . .	40
Clove . . . . .	184
Colchicum . . . . .	213
Collerette Dahlia . . . . .	380
Commercial Horticulture . . . . .	6
Common Daffodil . . . . .	203
Common Musk . . . . .	537
Compost . . . . .	120
Complementary Colour . . . . .	166
Contact Insecticides . . . . .	138, 139
Continuous Variation . . . . .	14
Contractile Root . . . . .	175
Coreopsis . . . . .	441
Corm . . . . .	171
Cornflower . . . . .	399
Cosmos . . . . .	500, 501
Cottage Tulip . . . . .	256
Coupling . . . . .	25
Cowslip . . . . .	516
Cox-comb . . . . .	497
Crimson Chinese Rose . . . . .	608
Crocus . . . . .	196, 197
Crown . . . . .	200, 383, 529

Cuphea . . . . .	581
Cupid . . . . .	424
Cuttings . . . . .	92
Cuttage . . . . .	92
Cyclamen . . . . .	216-220
Cyclamen-flowered Narcissus . . . . .	204

D

Dahlia . . . . .	370-382
Daisy . . . . .	507
Damask Rose . . . . .	611
Darwin Tulip . . . . .	256
Decorative Dahlia . . . . .	374
Delphinium . . . . .	401
Dianthus . . . . .	525
Dibbling . . . . .	68
Dicentra . . . . .	530
Discontinuous Variation . . . . .	15
Disbudding . . . . .	130
Disc . . . . .	172
Division . . . . .	185
Dominant Character . . . . .	18
Drilling . . . . .	68
Dragon Tulip . . . . .	256
Drummond Phlox . . . . .	407
Dutch Hyacinth . . . . .	236
Duplex . . . . .	424

E

Enzym . . . . .	24
Escholtzia . . . . .	417
Eulirion . . . . .	362
Exclusive Inheritance . . . . .	18
Eyes . . . . .	174



**F**

Feather Hyacinth . . . . . 228

Fibrous-rooted Begonia . . . . . 315

Flakes . . . . . 526

Floriculture . . . . . 3

Florist's Tulip . . . . . 256

Flower Bed . . . . . 155

Fluctuating Variation . . . . . 14

Forget-me-not . . . . . 411

Formaline . . . . . 154

Forsyth's Pot Cuttings . . . . . 94

Freesia . . . . . 289

French Marigold . . . . . 436

French Ranunculus . . . . . 285

Fuchsia . . . . . 571-573

Fungicides . . . . . 150

**G**

Gaillardia . . . . . 430

Gardening . . . . . 1

Garden Ranunculus . . . . . 282

Gaseous Insecticides . . . . . 138, 145

Gen . . . . . 24

Geranium . . . . . 563

Giant Musk . . . . . 538

Girdling . . . . . 133

Gladiolus . . . . . 349, 351-356

Globe Amaranth . . . . . 443

Gloxinia . . . . . 306

Gomphrena . . . . . 443

Grafting . . . . . 84

Graft Hybrid . . . . . 91

Grandiflora . . . . . 424

Grape Hyacinth . . . . . 225

Great Variation . . . . . 15

Greek Grape Hyacinth . . . . . 227

Green Rose . . . . . 609

Gypsine . . . . . 145

**H**

Harmony of Colour . . . . . 166

Haustellata . . . . . 139

Helianthus . . . . . 499

Helichrysum . . . . . 442

Heliotrope . . . . . 575

Heliotropium . . . . . 575

Herbaceous Peony . . . . . 533

Heredity . . . . . 13, 16

Hesperocordum . . . . . 234

Hippeastrum . . . . . 299, 300, 301, 302

Hooped Peticoat Daffodil . . . . . 202

Horse-shoe Geranium . . . . . 564

Horticulture . . . . . 1

Humus Soil . . . . . 43

Hyacinth . . . . . 236, 237, 238, 239

Hyacinthus . . . . . 236, 237, 238, 239

Hybrid Perpetual Rose . . . . . 611

Hybrid Tea Rose . . . . . 615

**I**

Imbricated Bulb . . . . . 172

Impatiens . . . . . 447

Inarching . . . . . 87

Indian Cress . . . . . 427

Individual Variation . . . . . 13

Inheritance . . . . . 16

Insecticides . . . . . 138

Intensity of Colour . . . . . 167

Iris . . . . . 340, 341, 348

Isolirion . . . . . 312

Italian Grape Hyacinth . . . . . 227

Italian Ranunculus . . . . . 285

Ivy-leaved Geranium . . . . . 567

Ixia . . . . . 293

**J**

Jonquill . . . . . 212

**K**

Kerosene Emulsion . . . . . 139

Kniphofia . . . . . 338

**L**

Landscape Gardening . . . . . 3

Lantana . . . . . 580

Large-flowered Show and Fancy  
Pelargonium . . . . . 568

Larkspur . . . . . 401

Lathyrus . . . . . 421

Layerage . . . . . 99

Layering . . . . . 99

Lent Lily . . . . . 203

Lilium . . . . . 361-367

Lime Soil . . . . . 42

Lime Sulphur Solution . . . . . 141

Lily of the Palace . . . . . 300

Lily of the Valley . . . . . 528

Loam Soil . . . . . 42

Lobelia . . . . . 446

Lobel's Catchfly . . . . . 410

London Purple . . . . . 145

Lupine . . . . . 540

Lupinus . . . . . 540

**M**

Magnicoronati . . . . . 201

Malmaison Carnation . . . . . 527

Mandiblata . . . . . 139

Manuring . . . . . 113

Marguerite . . . . . 576

Marigold . . . . . 435

Marl Soil . . . . . 42

Martagon . . . . . 362

Mathiola . . . . . 395

May-flowering Tulip . . . . . 257

Mazus . . . . . 510

Medio-coronati . . . . . 201

Medusa Trumpet Daffodil . . . . . 202

Memorial Rose . . . . . 610

Mendel's Law . . . . . 17

Mendelism . . . . . 17

Mesembryanthemum . . . . . 577

Midday Flower . . . . . 578

Mimulus . . . . . 536-538

Miniature Dahlia . . . . . 382

Monkey Flower . . . . . 536

Montbretia . . . . . 359

Monthly Rose . . . . . 608

Morning Glory . . . . . 451

Moss Rose . . . . . 610, 618

Muscari . . . . . 225

Musk Hyacinth . . . . . 228

Musk Rose . . . . . 610

Mutation . . . . . 33

Myosotis . . . . . 411, 412, 413



N

Narcissus . . . . . 200-213  
 Nasturtium . . . . . 427  
 Nemesia . . . . . 439  
 Nemophila . . . . . 396, 397  
 Nierembergia . . . . . 574  
 Noisette Rose . . . . . 617  
 Normal Colour . . . . . 165  
 Notching . . . . . 133  
 Nymphaea . . . . . 324, 327-336

O

Oak-leaf Geranium . . . . . 568  
 Offsets . . . . . 219  
 Olericulture . . . . . 3  
 Ophiopogon . . . . . 159  
 Opium Poppy . . . . . 414  
 Ornamental-leaved Begonia . . . . . 320  
 Oxalis . . . . . 229  
 Ox-lip . . . . . 516

P

Paeonia . . . . . 531, 532, 534, 583  
 Pansy . . . . . 392  
 Papaver . . . . . 414, 416  
 Paris Daisy . . . . . 576  
 Paris Green . . . . . 145  
 Parrot Tulip . . . . . 255  
 Parvi-coronati . . . . . 201  
 Pelargonium . . . . . 563  
 Peony Dahlia . . . . . 378  
 Peony Ranunculus . . . . . 284  
 Perennial Phlox . . . . . 408

Persian Ranunculus . . . . . 284  
 Petunia . . . . . 419  
 Pharbitis . . . . . 450  
 Pheasant's Eye Narcissus . . . . . 213  
 Phlox . . . . . 406-408  
 Picotee Poppy . . . . . 416  
 Picotees . . . . . 526  
 Pinching . . . . . 130  
 Plant Chimera . . . . . 91  
 Poet's Narcissus . . . . . 213  
 Polyanthus . . . . . 515  
 Polyanthus Narcissus . . . . . 210  
 Polyantha Rose . . . . . 618  
 Pomology . . . . . 3  
 Pompon Dahlia . . . . . 371  
 Pompon Rose . . . . . 610  
 Pond Lily . . . . . 324  
 Poppy . . . . . 414  
 Poppy Anemone . . . . . 272  
 Portulaca . . . . . 449  
 Primary Colour . . . . . 165, 166  
 Primula . . . . . 22, 23, 512-519  
 Primrose . . . . . 516  
 Primrose of the Alps . . . . . 517  
 Proper Arrangement of Colour . . . . . 169  
 Pruning . . . . . 130  
 Pure Line . . . . . 36  
 Purslane . . . . . 449  
 Pyrethron . . . . . 144

Q

Quamoclit . . . . . 448

R

Ranunculus . . . . . 282-285  
 Ranunculus Poppy . . . . . 416  
 Recessive Character . . . . . 18  
 Rectified Tulip . . . . . 259  
 Rembrandt Tulip . . . . . 256  
 Repulsion . . . . . 25  
 Rhizome . . . . . 171  
 Rhododendron . . . . . 589-592, 596-597  
 Ribbon Bed . . . . . 157  
 Rice-field Water-lily . . . . . 331  
 Roman Hyacinth . . . . . 238  
 Root Pruning . . . . . 132  
 Rosa . . . . . 604-611  
 Rose . . . . . 604  
 Rose Tulip . . . . . 257

S

Salvia . . . . . 444  
 Sand Soil . . . . . 38  
 Scabiosa . . . . . 438  
 Scaly Bulb . . . . . 172  
 Scarlet Anemone . . . . . 274  
 Scotch Ranunculus . . . . . 285  
 Secondary Colour . . . . . 166  
 Sedentary Soil . . . . . 37  
 Selfs . . . . . 526  
 Semituberous-rooted Begonia . . . . . 317  
 Sensation . . . . . 158  
 Show and Fancy Dahlia . . . . . 372  
 Silene . . . . . 409  
 Single Cactus Dahlia . . . . . 371  
 Single Dahlia . . . . . 371  
 Sinningia . . . . . 306  
 Slitting . . . . . 133

Small Variation . . . . . 14  
 Snapdragon . . . . . 542  
 Snow Drop . . . . . 171, 172, 179, 180  
 Snow Drop Anemone . . . . . 277  
 Soda Bordeaux . . . . . 153  
 Sow-bread . . . . . 216  
 Sparaxis . . . . . 296  
 Spawn . . . . . 220  
 Spencer . . . . . 424  
 Spilanthes . . . . . 446  
 Spring Starflower . . . . . 234  
 Star Anemone . . . . . 274  
 Star Daffodil . . . . . 206  
 Star Narcissus . . . . . 206  
 Star Phlox . . . . . 407  
 St. Brigid Anemone . . . . . 273  
 Stock . . . . . 395  
 Stomachic Poison . . . . . 138, 145  
 Stork's bill . . . . . 564  
 Sun Plant . . . . . 449  
 Sweet Pea . . . . . 421  
 Sweet-scented Water-lily . . . . . 330  
 Sweet Violet . . . . . 506  
 Sweet William . . . . . 410  
 Sword Lily . . . . . 349  
 Syringe . . . . . 224

T

Tagetes . . . . . 435  
 Tea Rose . . . . . 608, 613  
 Tea-scented Rose . . . . . 608, 613  
 Tertiary Colour . . . . . 166  
 Tom-thumb Dahlia . . . . . 382  
 Tone of Colour . . . . . 167



Torenia . . . . .	431, 433
Touch-me-not . . . . .	448
Training . . . . .	135
Transported Soil . . . . .	37
Trap Food . . . . .	137
Trap Lamp . . . . .	136
Tree Peony . . . . .	584
Triplet Lily . . . . .	234
Triteleia . . . . .	233
Tritoma . . . . .	338
Tritonia . . . . .	296
Tropaeolum . . . . .	427
Trumpet Daffodil . . . . .	203
Turban Ranunculus . . . . .	285
Tuber . . . . .	171
Tuberous Root . . . . .	171
Tuberous-rooted Begonia . . . . .	311
Tulip . . . . .	250
Tulipa . . . . .	250-255
Tunicated Bulb . . . . .	172
Turkey Ranunculus . . . . .	284

V

Variation . . . . .	13
Verbena . . . . .	541
Viola . . . . .	392, 506

W

Wallflower . . . . .	511
Water-Lily . . . . .	324
White Lotus . . . . .	333
Wind-flower . . . . .	269
Winter Aconite . . . . .	179, 180
Wood Anemone . . . . .	276
Wood Sorrel . . . . .	229

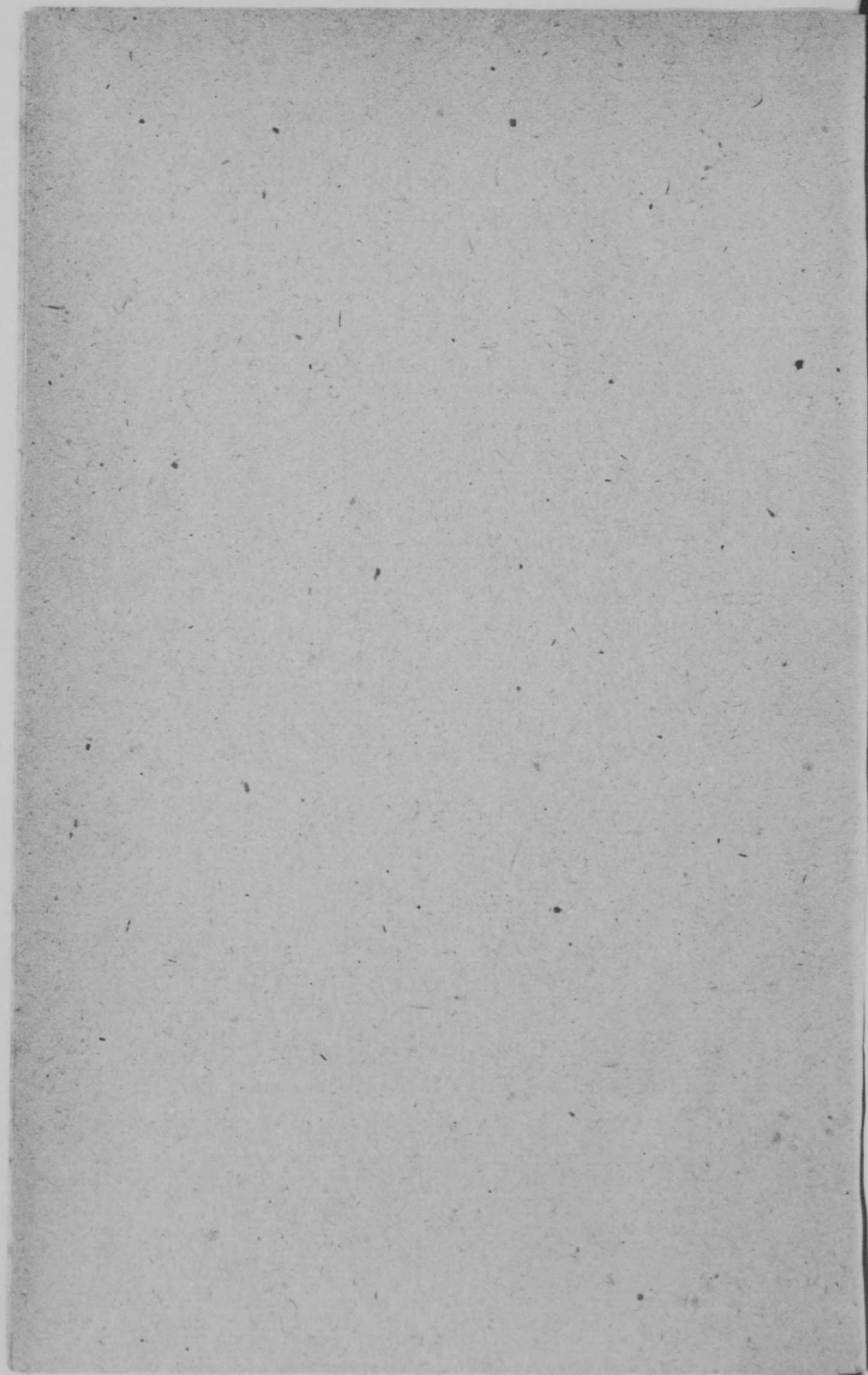
Y

Yellow Wood Anemone . . . . .	277
-------------------------------	-----

Z

Zephyranthes . . . . .	360
Zinnia . . . . .	433
Zonal Pelargonium . . . . .	564
Zoisia . . . . .	159







358  
167



終